

(L) 迎 町

地区のデータ

地区構成	迎町1・2▲丁目 本荘5丁目▲
旧地名及び呼称	大工町 宝町 紺屋新今町
地区面積	5.9 ha
地区人口	S50 2,886 人 S60 2,255 人
地区人口密度	S60 90.2 人/ha
用途地域	商業地域 5.9 ha (100%)

地区の歴史

正保元年(1644)細川時代になって、城下の侍町を広げるために通町の職人を移して宝町・新大工町、紺屋新今町の三町をひらいた。長六橋の川向かえの町ということから「向町」と言われ、また南方から迎えられるということから「迎町」といわれるようになったとも言われている。

迎町は商家の多い町であり、五穀屋が多かった。明治初めの記録では味噌・醤油・穀物・薬種・絞油・旅籠屋・質屋とともに職工も多く鍛冶屋・傘張り・大工・素麺職人などである。鍛冶屋は東隣の本荘も多く、江戸末に本荘の北に練兵場がつけられたためと、近くの農家のために、「くわ」や「すき」を作るためとも思われる。明治34年の記録では、職工労働者の戸数が一番多くなっている。

文政8年(1820)細川斉茲が迎町西方の本山に別御殿をたて、その後その御殿跡に武士がすんでいたため、本山は「士族村」と呼ばれていた。この士族村には横井小楠の教えを受けた実学党系の人々が多く住んでいた。

長六橋は安政4年(1857)安巳橋が架かるまでは、白川に架かった唯一の橋であった。また、「薩摩街道」「日向街道」「高森往還」「木山往還」は迎町を分岐点としているため旧藩時代から交通の要所であり、当時から人通りも多く賑わっていた。

昭和11年には産業道路(戦時中までは軍用道路と呼ばれていた)ができ以前とは人通りも変わり、街の様相も変わっていった。

迎町界隈は、旧藩時代から地蔵祭りがさかんで各組ごとに地蔵をもって祀っていた。特に、人形師・松本喜三郎がすぐれた「造り物」を地蔵祭りに奉納していたことから迎町の名は県下に知れわたることになった。



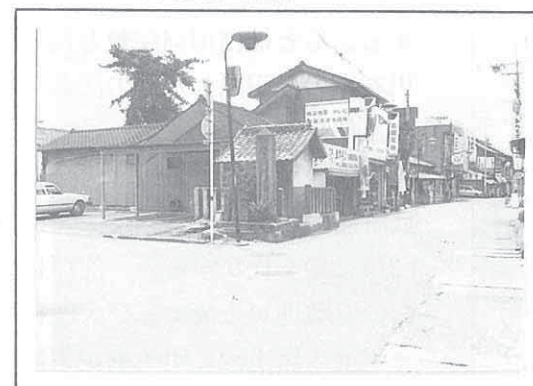
名 称	概 要
1 薩摩屋敷	もともとは益城屋という造り酒屋である。参勤交代のときの島津氏の休息場であり、泊ることもあったという。二階には六畳の仏間があり、格天井には一こまずつ草花の漆絵が美しく描かれている。
2 御船口の街道分岐点	御船へつづく日向街道の入口である。放牛地藏が祀られており、右へ行けば御船、左へ行けば木山往環である。
3 井上整骨医院	昭和初期の木造建築で、黒漆喰の堂々とした構えが今も残る。隣の鉄筋コンクリー造の病院ができるまでは医院として使われていた。
4 小堀流宗本家	旧藩時代白川端に屋敷が並んでいたが、その内の一軒で茶道の「肥後古流」、泳法の「踏水術」等の総本家である。
5 永田水飴屋	白漆喰塗で古いノレンを誇っており、今も菓子屋として古い店構えをもつ。
6 本山御殿跡	文政3年(1820)細川 ^{なりしげ} 齊茲の別御殿跡で、明治になり実学党が学校をつくり教育に努めた所である。
7 松尾商店	種こうじの工場であり、規模は縮小されたが土蔵造りの工場でも製造されている。
8 鉄砲製作所跡 (竹田鑄鉄工場)	鉄砲が伝来してから肥後藩も鉄砲製作所を設け鑄造に力を注いだ。今なお屋根には細川家の九曜の紋のはいた瓦が見うけられる。
9 かんかん橋	三の井手にかかる小さい橋で、橋から見える土蔵造りの風景が面白い。
10 三の井手	清正が農業用に作った用水路の一つで、大井手から分岐している。
11 中 通 り	手職人の町で産業道路ができるまではにぎわっていた。この道沿いには、昔の面影を残す建物が点々と残っている。

名 称	概 要
12 川 尻 口	薩摩街道の川尻への入口である。今も放牛地藏が祀られている。

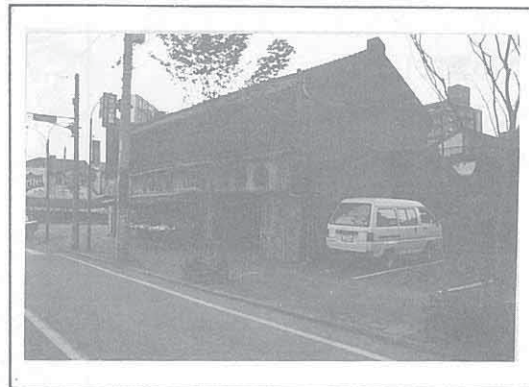
薩摩屋敷



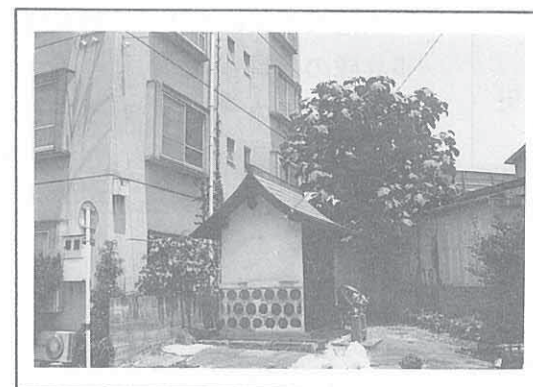
御船口の街道分岐点



永田水飴屋



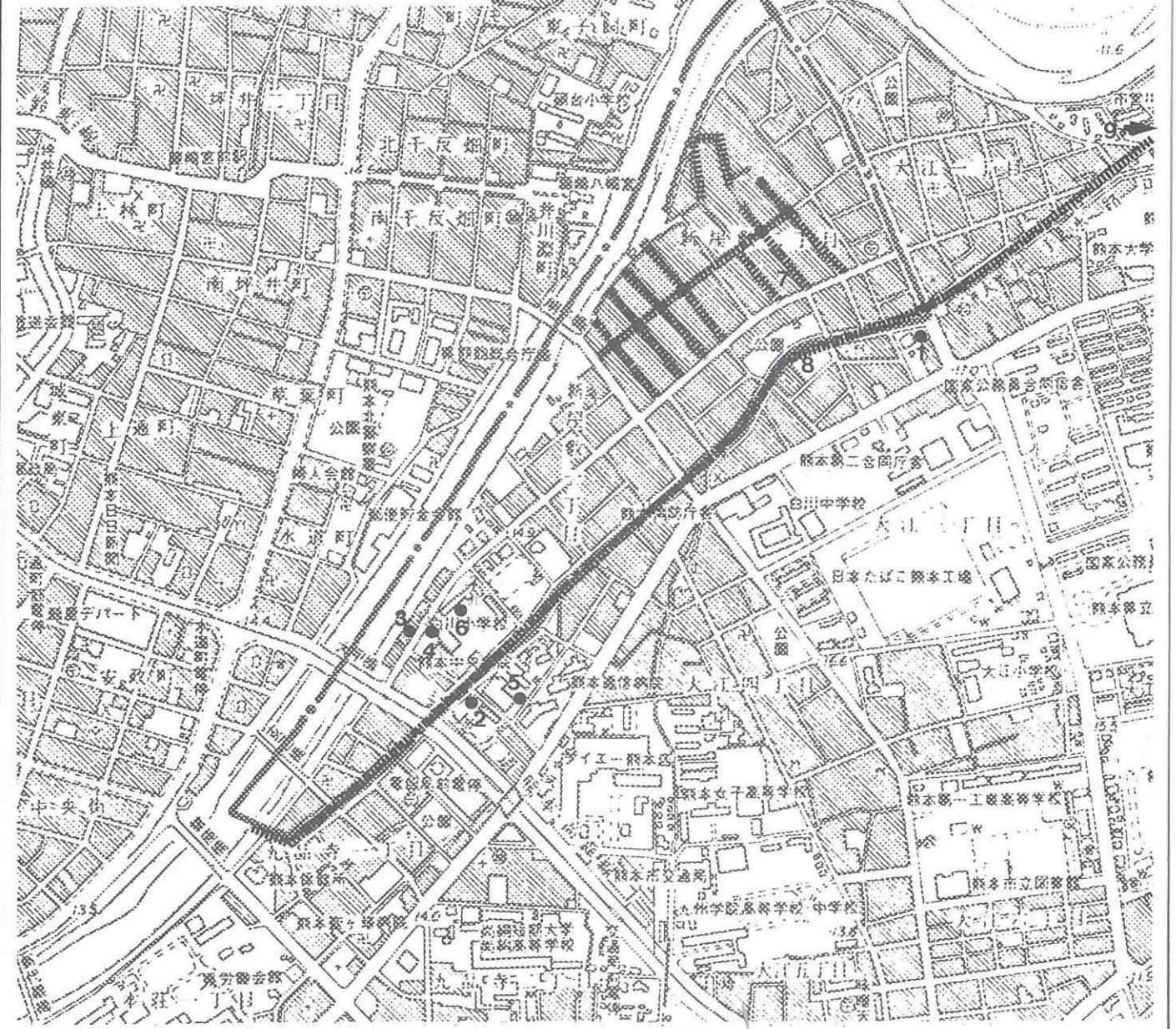
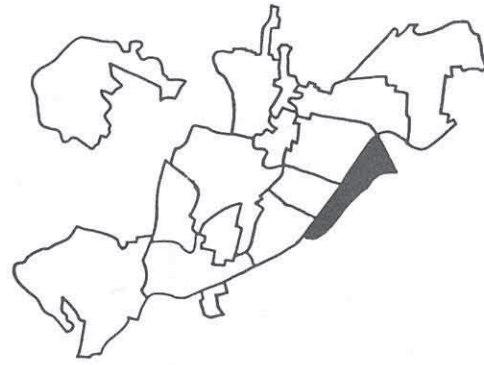
川尻口



(M) 新屋敷

地区のデータ

地区構成	新屋敷1・2丁目 九品寺1丁目▲	
旧地名及び呼称	傘淵通 一番丁 二番丁 三番丁 四番丁 五番丁 六番丁 七番丁 八番丁 九番丁 大江村通 大江村 白川新町 一番丁 二番丁 三番丁 四番丁 五番丁 六番丁 ウスナシ丁 水道端上通 水道端中通 水道端下通	
地区面積	31.2 ha	
地区人口	S50	4,223 人
	S60	3,988 人
地区人口密度	S60	71.7 人/ha
用途地域	第二種居住専用地域	20.7 ha (66.3%)
	近隣商業地域	4.1 ha (13.1%)
	住居地域	3.3 ha (10.6%)
	商業地域	3.1 ha (10.0%)



地区の歴史

白川と大井手と呼ばれる用水路との間の少し高くなった地に位置する。もとは白川向屋敷と白川町である。安政4年(1857)に、白川右岸の高田原と左岸の託麻郡本荘手永九品寺の間に安巳橋が架かり、往来が容易になった。文久元年(1861)から白川左岸沿い九品寺村内に武家屋敷として白川向屋敷ができたはじめたと同時に、この武家屋敷へ物資を供給するための町家として白川町が成立した。同2年参勤交代がゆるみ、江戸にいた家臣たちが熊本に戻ってきたため、屋敷地が上流に延び大江村域にまで広がった。

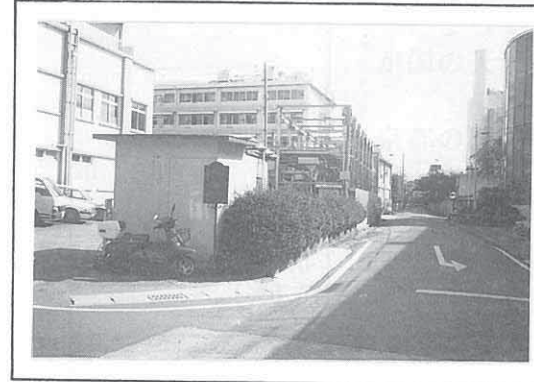
明治3年上流に明午橋が架設され、新屋敷はますます北方に延びていった。武家地内は安巳橋に近い方を古屋敷(古新屋敷)、明午橋通りの北の方を傘(からかさ)と水道端と通称した。

明治30年代に大江村に野砲隊や騎兵隊が兵営を設け、大正末には歩兵隊の兵営も大江村に新設されたため繁栄した。

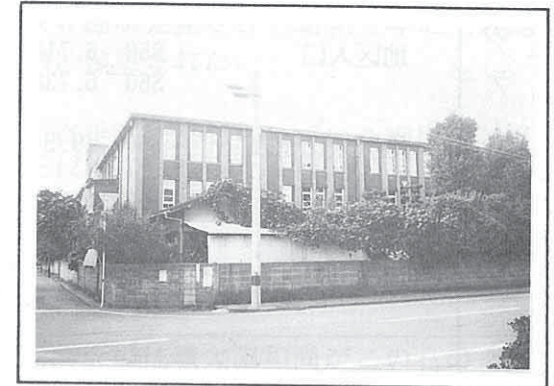
昭和20年の大空襲で被害を受け敗戦により軍隊もなくなったため、商店街はしばらく復興できず再建は昭和30年代になった。

名 称	概 要
1 昭和初期の民家	西南の役に焼け残った土蔵造りの商家や庇の低い民家がある。
2 大江女学校跡	明治20年竹崎順子が熊本英学校付属女学校として創立。現在のフェイス女学校の分身で、熊本で最も古い女学校である。
3 中島 ^{ひろたり} 廣足邸	肥後藩士で幕末頃の日本屈指の国学者であり歌人である。長崎と大阪で塾を開いたのち、文久元年(1861)藩命で熊本に召され国学師範となった。現在ここは、肥後古流、華道の家元、同時に礼法も伝えた武田家の屋敷である。
4 栃原塾跡	明治4年に栃原知定が開いた塾で、同7年までここで子供の教育にあたった。
5 元田永孚 (五楽園)跡	教学大旨や教育勅語の起草に当たった元宮中顧問官の屋敷跡である。
6 白川小学校	熊本市で初めての本格的鉄筋コンクリート造の小学校であり、熊本大空襲時の被弾の跡がある。
7 町割り、 傘町の町割	細川家時代に武家町が広がり白川の対岸に屋敷割りをした。カラカサ1丁目から3丁目までであった。
8 大井手	加藤清 ^{かんがい} 正が灌漑用に白川からひいた用水路である。夏になると井手沿いは柳の並木が美しく、ホタルも見られる。
9 渡鹿堰	大井手口である。白川のこの地点からとり込まれた水は、一の井手・二の井手・三の井手へ分岐する。堰のあたりは川巾も広く魚つりを楽しむ人も見つけられる。

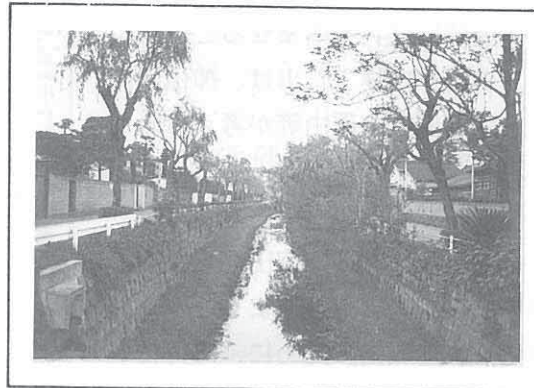
元田永孚屋敷跡



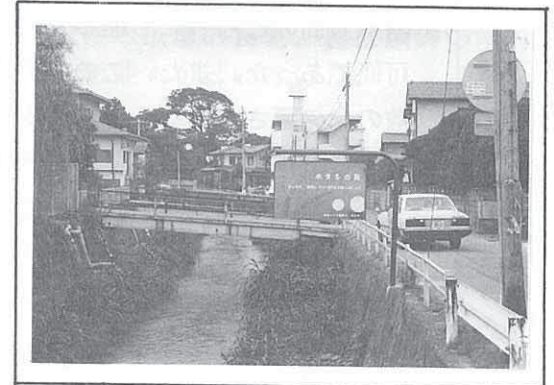
白川小学校



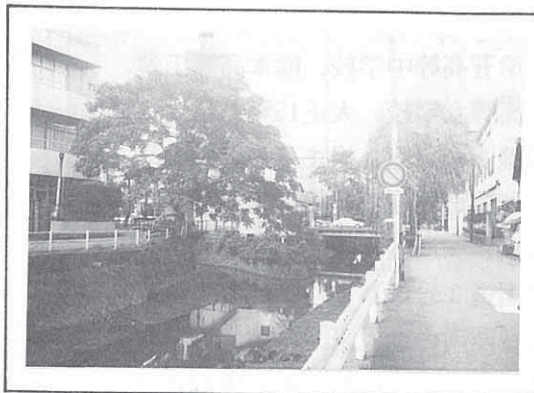
大井手沿いの風景



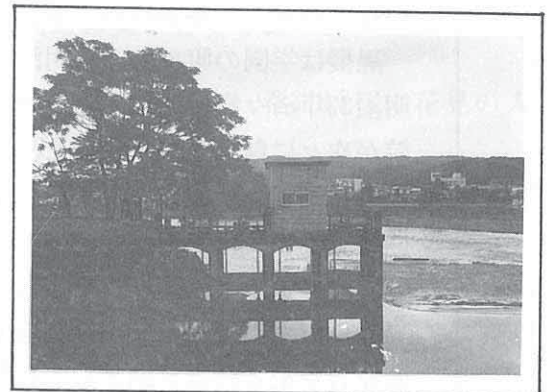
大井手沿いの風景



井手の分岐点



渡鹿堰



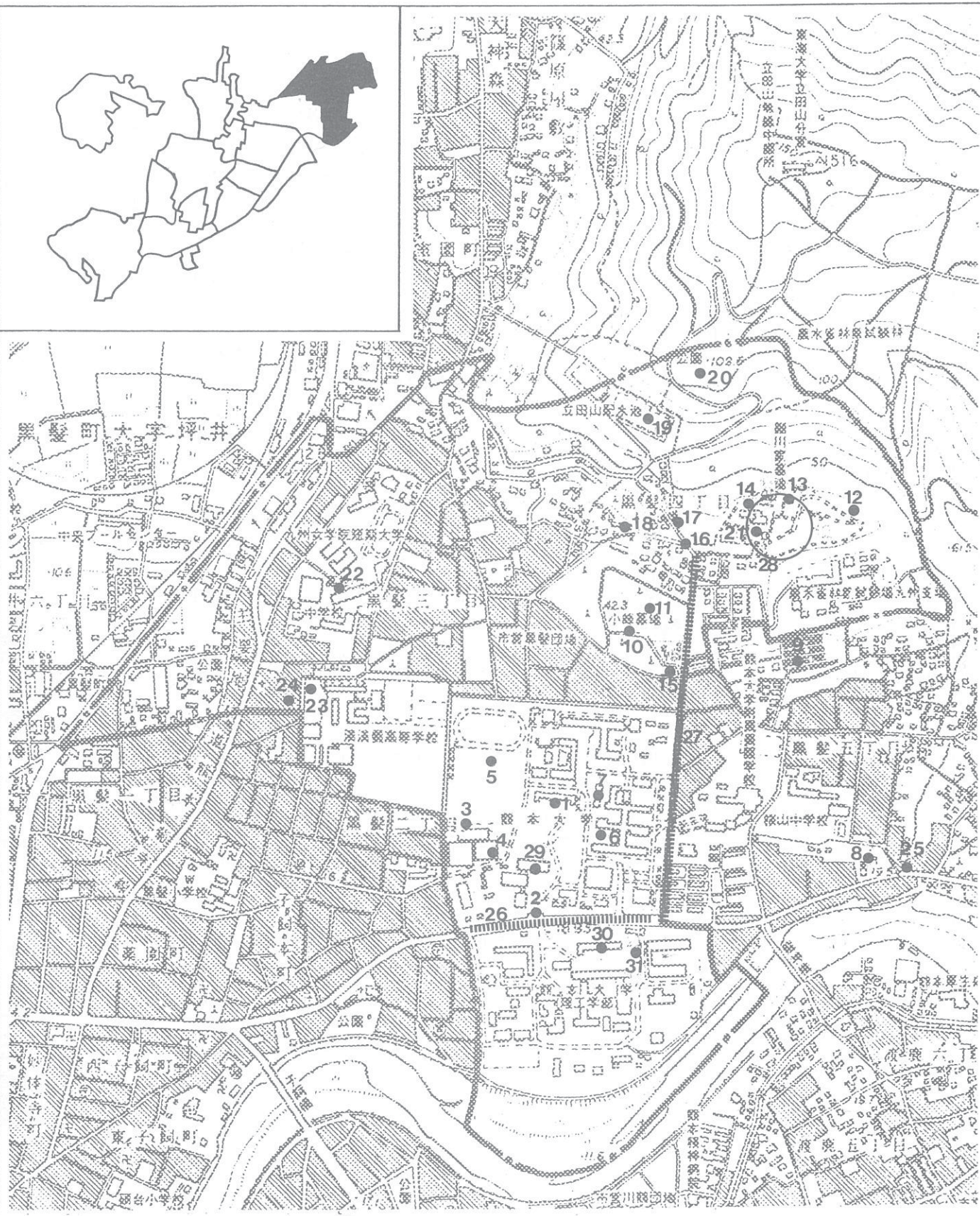
(N) 黒 髪

地区のデータ

地区構成	黒髪 2 [▲] ・3・4丁目		
旧地名及び呼称	立田 泰勝寺 泰勝寺馬場		
地区面積	101.8 ha		
地区人口	S50	6,718 人	
	S60	6,738 人	
地区人口密度	S60	49.5 人/ha	
用途地域	第二種住居専用地域	73.3 ha	(72.0%)
	準工業地域	10.8 ha	(10.6%)
	近隣商業地域	0.9 ha	(0.9%)
	市街化調整区域	16.8 ha	(16.5%)

地区の歴史

黒髪は東方の防備のために重要な位置であった。
豊臣秀吉を祀るため、立田山麓に豊国廟を築いたが、ここは菊池・阿蘇方面のどちらにも面しており万一の際には兵を潜ませることも可能であった。また、この付近に多くの寺社を建てた事は、神仏崇敬の念の篤さのみならず、切支丹対策、軍備上の理由等が考えられるがこれは細川氏時代にも引き継がれる。
このあたりは奈良時代から竹辺と連なって桑畑が多く養蚕が行われ、一面桑畑であった。細川氏時代になって、黒髪は飽田郡五町手永に属し、また治安のために寛永13年(1636)菊池往還より東、立田杉馬場まで「地筒」と呼ばれる郷士(新地開拓のために、郷村に居住する武士) 100人余りが編成された。寛永14年(1637)細川忠利により、細川家菩提寺として泰勝寺が建立された。藩主は参勤の前後、妙解寺、泰勝寺へ参詣していた。
黒髪は学園の町である。明治22年第五高等中学校、熊本高等工業、明治33年済々黉、昭和6年市立実科高等女学校、大正15年九州女学院が次々に創設された。また、交通機関の発達と相まって黒髪の交通も整備されていった。大正12年菊池電車開通、昭和2年乗合バス開通、昭和3年市電(浄行寺-子飼橋)開通、昭和6年浄行寺から五高通りまでの舗装、また昭和43年国道3号線バイパスが新設され自動車の量も増えた。小峰墓地公園は西南の役以来、日清、日露の戦死者を祀る陸軍墓地として有名であったが、昭和27年に放射状に走る参道の両側に墓石を整然と並べて整備され、名所となっている。



名 称	概 要
1 旧第五高等学校 本 館	明治22年(1889)8月完工。設計は、パリのエコール・サントラルで建築技術を学んだ山口半六と西洋建築の導入に功績のあった久留正道による。重要文化財である。
2 熊本大学正門 赤 門	校舎と同時に建てられたレンガ造で、門札が不思議になくなるので有名である。重要文化財である。
3 嘉納治五郎碑	教育者。講道館柔道の創始者で、第3代の五高校長(1860~1938)として来熊し、妻スマ子は天草の人である。
4 ラフカディオ ハーン英文碑	「極東の将来の碑」とも言われる。五高に赴任中、明治27年1月全学生に「極東の将来」という講演を行い深い感銘を与えた。
5 武 夫 原	五高、熊本の代名詞。寮歌のもとになったグラウンド。
6 教 育 の 碑	夏目漱石が五高生の卒業時に述べた言葉で「其レ教育ノ本源ハ」に始まる格言。自然石に彫ってある。
7 化学実験棟	熊本初めての化学室で、赤レンガ造の建物である。
8 桜 山 神 社	維新の際、国難に殉じた宮部鼎蔵ら23士とその師林桜園の石碑、神風連の変でたおれた太田黒伴雄以下123士の墳墓が並んで建っている。
9 リデル・ライト 記念老人ホーム	イギリス人ハンナ・リデルは女性宗教家で明治22年来熊し、多くの癩患者を見て救済に着手し、明治28年この地に回春病院を創立した。終生救癩活動に献身し熊本で没した。その後、姪のライト女史によって事業は受け継がれた。この2人を記念して設立した。
10 鼻 かけ 地 蔵	旧藩時代に作られた地藏仏で小泉八雲が愛し「東の国から」に書かれている。
11 海 老 原 の レ リ ー フ	海老原喜之助画伯が西南の役の官軍墓地一帯を公園化したときに描いたエッチングをはめ込んだ塔である。

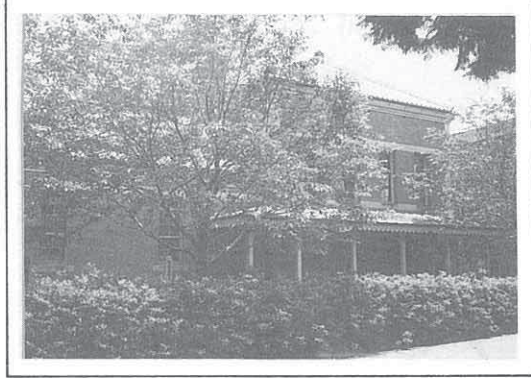
名 称	概 要
12 八重くちなし 自 生 地	指定地は黒髪、農林水産省林業試験場、九州支場の実験林内にある約2haである。大正9年五高教授浅井車一によって八重咲き品が発見され、昭和4年に生育地が国の天然記念物に指定された。
13 仰 松 軒	京都の天龍寺塔頭真乗院に建てられていた細川忠興好みのものを、大正12年に復原した。前庭の石灯籠と手水鉢は京都で忠興が愛用したものである。
14 四 ツ 御 廟	初代細川藤孝夫妻と、二代細川忠興夫妻の墓である。
15 宮 本 武 蔵 の 引 導 石	武蔵葬送の際、泰勝寺の住職大淵和尚がこの石のうえに立って引導を渡したと言い伝えられている。
16 安永信一郎歌碑	「立ちどまり子にも教へて仰ぐには寂しきかなやか杉の木の花」と読んだ熊本歌壇の長老。昔は歌碑の南方一帯から熊大横まで杉並木が続いていた。
17 徳永直文学碑	明治32年~昭和3年、花園に生れた小説家で黒髪小学校中退で印刷士となり、職業を転々とした。上京しプロレタリア作家として有名。熊本を舞台としたものには「最初の記憶」「冬枯れ」「風」「海の上」「こんにゃく売り」などがある。
18 寺田寅彦下宿跡	寅彦が五高時代に下宿したところである。当時五高教授であった夏目漱石に教わる。明治31年21才の頃から「ホトトギス」誌上に俳句、随筆等の作品を発表。物理学者であると同時に文学者でもある。
19 竜田山配水地下 の 公 園	ここから黒髪の町が見わたせる。春には桜の花見の人で賑うところでもある。
20 豊 国 廟 跡	加藤清正が、豊臣秀吉を豊国大明神として祀るために立田山の中腹に社を築いた跡。
21 旧 お 茶 屋 跡	泰勝寺の付屋敷で妙解寺詣時に精進落としをした家で六種の竹で周りを囲まれているという。

名 称	概 要
22 九州女学院本館	大正14年（1925）竣工。設計は、アメリカ人のヴォーゲルで、木組の印象を与える6本の鉄筋コンクリートの列柱が特徴である。
23 同 心 学 舎	済々黌高校の前身で、元高田原相撲村に建てられた校舎を記念館として保存している。
24 元 侍 従 家	元高原侍従（明治天皇の時代）の住んでいた家である。
25 一 里 木 跡	札の辻から数えて1里の地。榎の大樹が道の両側に相対していたが切り倒され、そのあとに記念碑が建っている。
26 杉 並 木 （熊本大学正門前）	この通りは豊後街道で、絵図にもこのあたりに杉が描かれている。
27 杉 並 木 跡 （立田山への道）	泰勝寺跡へ続くこのまっすぐな道の両脇には第二次世界大戦まで大きな杉が立ち並んでいたという。
28 泰 勝 寺 跡	細川家の菩提寺跡である。現在は細川家の屋敷と庭園、墓地に分かれ、庭園部分は立田山自然公園として市民の憩いの場所である。
29 熊 本 大 学 学 生 会 館	バルコニーの先端よりも大きく張り出した2階の屋根はデザインもおもしろく、強い日差や雨を防ぎ快適な空間を生み出している。
30 熊本大学本部 （旧熊本高等工 業学校本館）	夏になると南側外壁には一面につたが生い茂り、学校の歴史を感じさせる。
31 工学部図書分室 （旧熊本高等工 業学校別館）	大正14年に創建された。正面の窓回りの飾りは全体に軽妙な印象を与え大正末の建築独特の雰囲気を持つ。

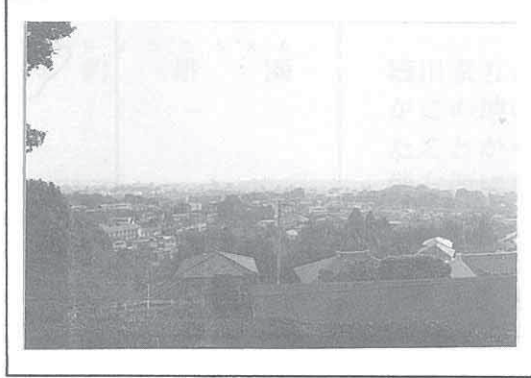
旧第五高等学校本館



化学実験棟



立田山配水地下からの眺望



豊国廟跡



桜山神社



鼻かけ地藏



一里木跡



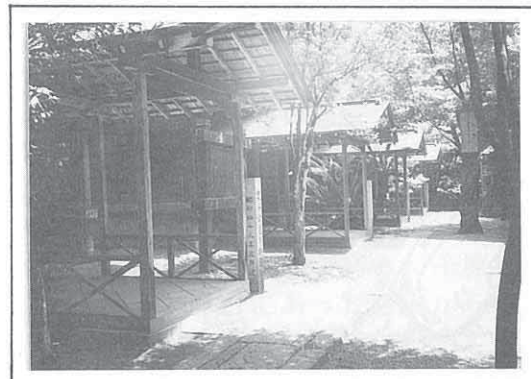
杉並木 (熊本大学正門前)



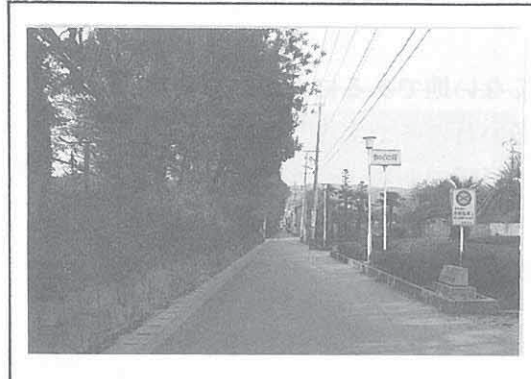
仰松軒



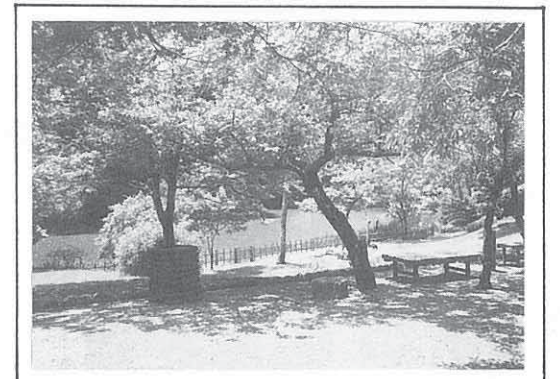
四ッ御廟



杉並木跡 (立田山への道)



泰勝寺庭園跡 (立田山自然公園)



(○) 本妙寺・島崎

地区のデータ

地区構成	花園2・4丁目 島崎4～6丁目▲		
旧地名及び呼称	牧崎村 中尾丸 小山田 本妙寺		
地区面積	124.8 ha		
地区人口	S50	6,171 人	
	S60	6,479 人	
地区人口密度	S60	29.7 人/ha	
用途地域	第二種住居専用地域	72.5 ha	(58.1%)
	第一種住居専用地域	25.6 ha	(20.5%)
	近隣商業地域	2.3 ha	(1.9%)
	市街化調整区域	24.4 ha	(19.5%)

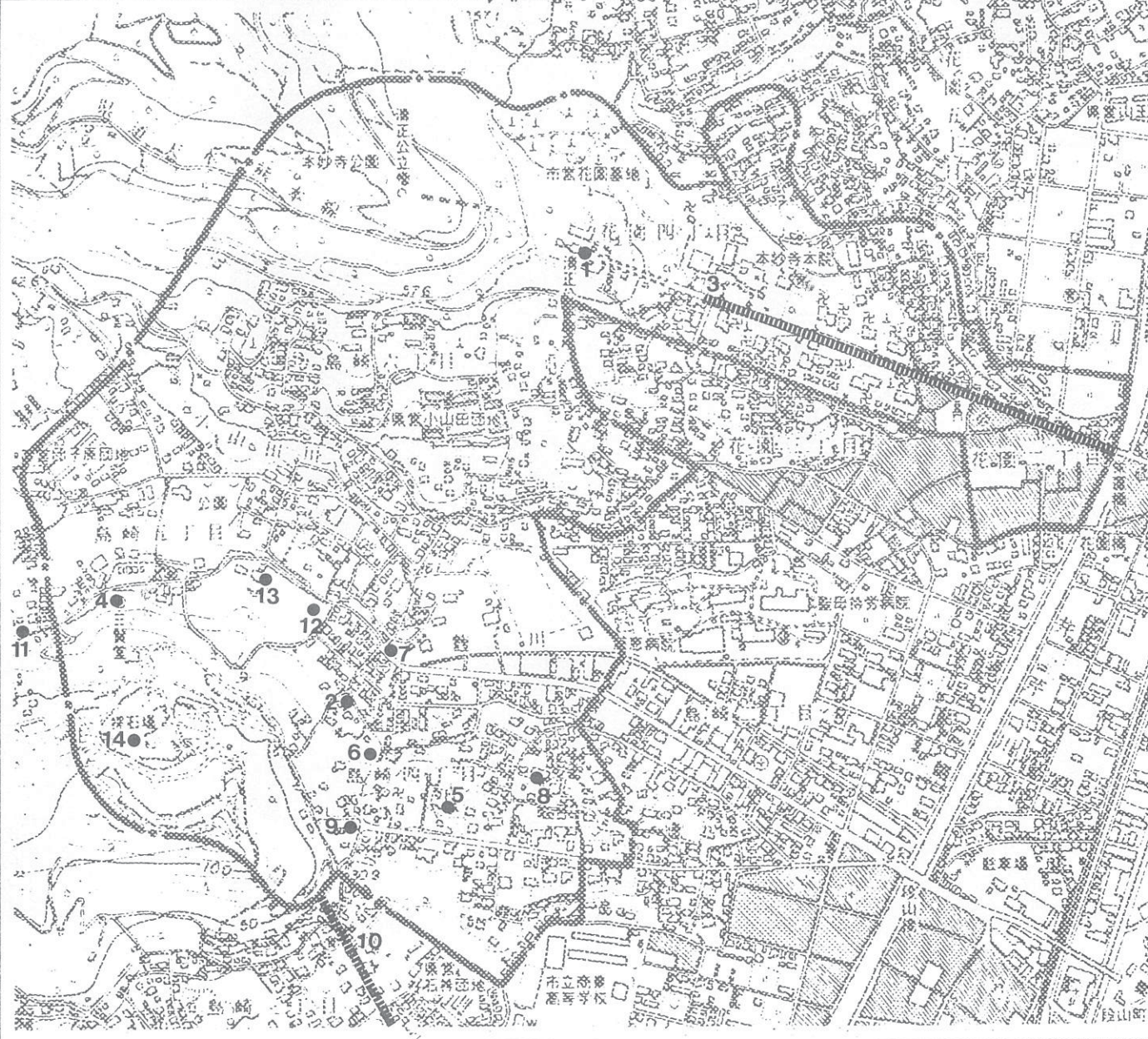


地区の歴史

慶長16年(1611)加藤清正が没し、遺言により中尾山中腹に葬られ、浄池廟と号した。その後、慶長19年(1614)に城内の本妙寺が焼失したので元和2年(1616)日遙が忠広に勧め、浄池廟の地に本妙寺を移した。中尾山は古くから開け、熊本近郊での一種の聖域のようなところであったのだろう。この寺は伝承のとおり天守とほぼ同じ高さに位置している。

細川時代になっても細川家菩提寺と同等の扱いとされ、清正の没後、五十周忌・百周忌・百二十五周忌と清正公あるいは清正神祇として庶民信仰の対象としてますます賑わいを増して、参道に飯店や茶店が並ぶほどであった。新田開発、治水土木の神として清正公祭礼も行われ、二百五十周忌には城下だけでなく京都・大阪からも参るほどであった。茶店・酒屋・草小屋・猿芝居・見せ物小屋が軒を連ねていたらしい。城下においてもこれほどの娯楽街は当時なかったと思われる。

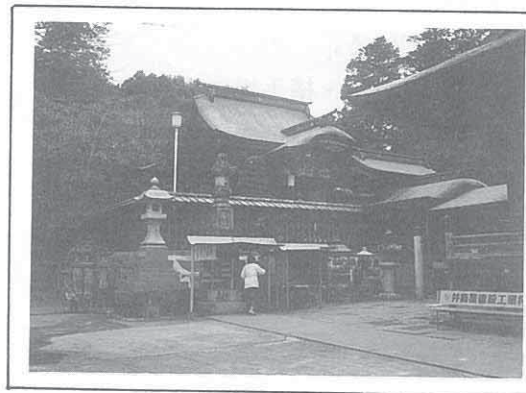
島崎は現在でも市街地よりあまり遠くない地であるにもかかわらず自然に恵まれた景勝地であり史跡の多いところである。石神神社から百梅園、長命水と長場坂を下ると三軒屋である。ここには叢桂園、釣耕園がある。これらは江戸時代中頃の細川家のお茶屋であり、釣耕園は綱利より続弾右衛門に与えられ現在も大切に保存されている。



名 称	概 要
1 本 妙 寺	日蓮宗の寺で、もとは天正13年に清正が父の冥福を願うために、大坂に建立した寺で、清正入国後城内に移された。慶長16年に清正が没し遺言により、中尾山中腹に葬り浄池廟を造営した。慶長19年に城内の本妙寺が焼失したために浄池廟の地に移した。清正公信仰の普及に伴い、庶民信仰の中心地となった。
2 お 茶 の 水 (長 命 水)	今も湧き水が出ている。昔からこの水を毎日飲むと長生きするとか、顔を洗うと色が白くなるとかいわれていた。茶の湯の水として有名である。
3 本 妙 寺 参 道	参道石段は急勾配のため「胸突雁木」と呼ばれ、12の塔頭がある。
4 三 賢 堂	熊本出身の政治家安達謙蔵により、精神修養の場として昭和11年に建てられた。堂内には肥後の三賢人として菊池武時・加藤清正・細川重賢の坐像が安置されている。
5 古 荘 邸	旧財閥の豪邸で、昭和5・6年頃の建造である。
6 百 梅 園 跡	塾跡で名称は時習館の先生兼坂止水が百本の梅の木を植えたことによる。
7 三 軒 屋	古くは茶屋であつたらしく、今は地名として残る。
8 島 田 美 術 館	昭和52年に建った私立美術館で肥後の武人文化（主に宮本武蔵）を紹介している。
9 石 神 八 幡 宮	石神山（島崎山）のふもとにあり、本来は山そのものが神として尊ばれていたものと考えられる。宇佐八幡の大宮司到津公益が1264年に島崎郷を賜って、下向するとき、宇佐八幡の一小石を持参し神体を島崎山麓に祀ったのが始まりとされる。
10 千 原 桜 通 り	城西小学校前の通りで約50本の千原桜がある。千原桜は山桜の一変種で、島崎町千原台にあった原樹から増殖したものである。咲き始めは黄緑色で後に白色に変わる。

名 称	概 要
11 岳 林 寺	城親賢がたてた寺だと言われ、庭には親賢の墓がある。植木業の人たちは毎年おまいりするそうである。また、西の武蔵塚といわれ宮本武蔵の遺髪墓がある。
12 <small>そ う け い え ん</small> 叢 桂 園	釣耕園の下手にあり、藩の医学校再春館の師、村井家の別荘で村井見朴の子椿寿が作庭したと伝えている。
13 <small>ち ょ う こ う え ん</small> 釣 耕 園	細川家五代藩主綱利が設けたお茶屋である。米田松洞がこの地に遊び、その景観を「釣月耕雲」と詩に詠じたことから「釣耕園」の名が付けられた。その後、続弾右衛門に与えられ続家が管理している。
14 石 神 山	島崎山（標高 140m）のことで、金峰山・荒尾山等、熊本市北西部にそびえる火山群の末端にある。石神山の石材は良質の輝石安山岩であるが、清正は熊本城の将来の修復に備えて、この山の石には手を付けなかったという。

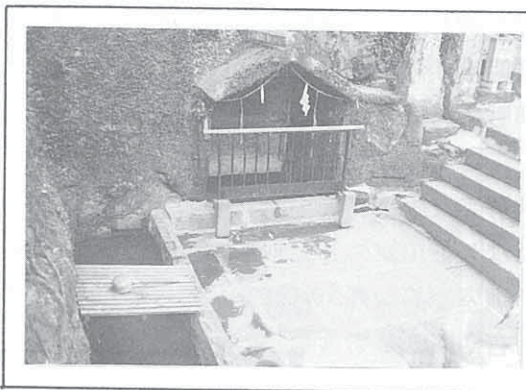
本妙寺



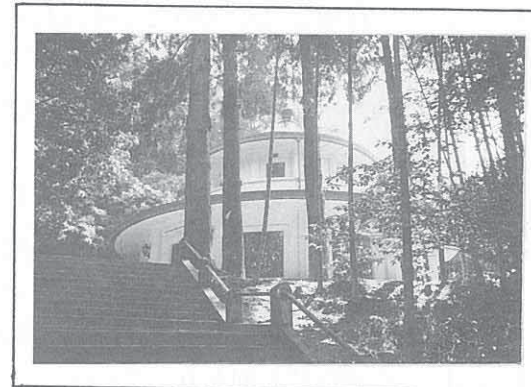
本妙寺参道



長命水



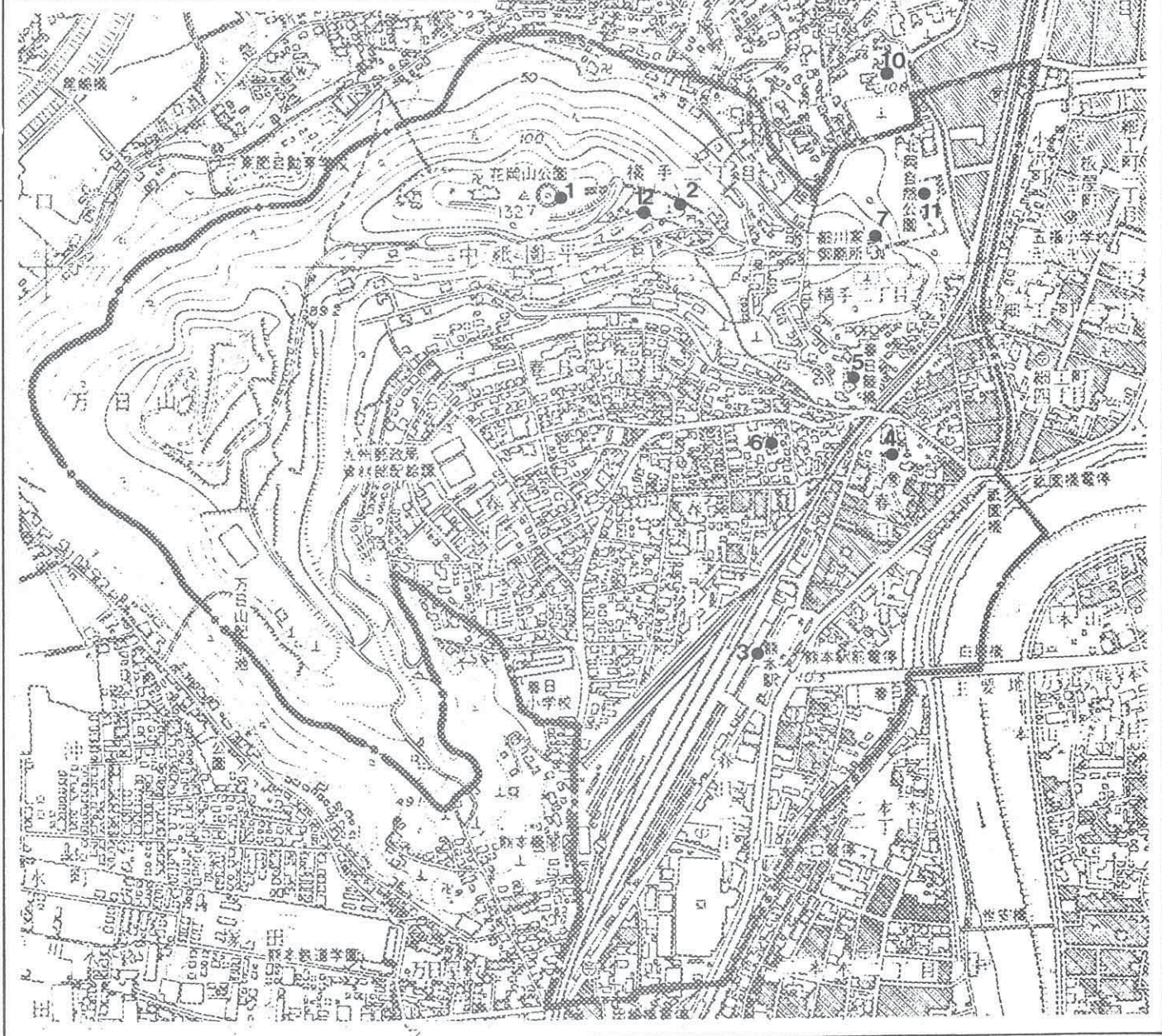
三賢堂



(P) 横手・春日

地区のデータ

地区構成	横手2丁目 春日1～5丁目 春日町▲ 池上町▲ 戸坂町▲
旧地名及び呼称	北岡 春日村 久末 久末村 田崎 田崎村 宮寺 二本木町
地区面積	138.9 ha
地区人口	S50 9,243 人 S60 8,410 人
地区人口密度	S60 48.1 人/ha
用途地域	住居地域 65.5 ha (47.2%) 商業地域 18.7 ha (13.4%) 準工業地域 15.8 ha (11.4%) 住居専用地域 11.4 ha (8.2%) 近隣商業地域 11.1 ha (8.0%) 市街化調整区域 16.4 ha (11.8%)



地区の歴史

春日の地は歴史が古く大和朝廷の頃までさかのぼるが、今も平安時代頃のいわれのある北岡神社・清原神社・加茂神社・春日神社・春日寺・清水寺等、神社・仏閣が多く残っている。

旧藩時代は横手手永に属し、明治になり春日村・横手村に分かれる。春日村には明治13年、熊本市と百貫石を結ぶ県道が開通し、郡役所や警察等が設置され発展の兆しが見え始める。明治24年に春日大根・春日ボウブラ（カボチャ）畑の真中に春日停車場（熊本駅）が建設されて以降、旅館・弁当屋・売店など開業し、戸数も増し車馬の往来も激しくなり、街の観をなすようになる。明治末、春日町は熊本市に直結する物資の集散地であったため銀行・紡績会社・運輸会社など設立されます賑わった。その後軽便鉄道開通、大正には豊肥線開通、市電開通と続き繁栄した。

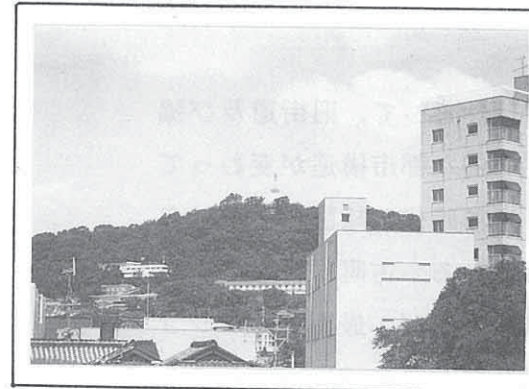
花岡山は祇園山とも呼ばれ町の守り神として旧藩時代から人々に親しまれてきた山である。山頂には明治9年の熊本バンド血盟の地の碑がある。また東側中腹には西南戦争の薩摩軍の砲台跡がありここから熊本城を砲撃した。

横手町にも寺が多くなかでも、妙解寺は細川光尚が忠利を弔って建てた寺院である。明治には廃寺になり細川家の北岡別邸となった。裏山には忠利以下重賢に至るまでの廟屋や墓碑群・石灯籠が残っている。忠利の殉死者の墓（阿部弥市右衛門の墓も含む）もあり今は北岡自然公園となっている。

名 称	概 要
1 熊本バンド血盟の地	明治9年1月29日夜から30日の朝にかけ、洋学校教師ジェーンズから新しい実学教育を受けキリスト教に入信しようとした小崎弘道ら35名が奉教の誓いをたてた。
2 西南の役薩摩軍砲座の址	明治10年3月薩摩軍は本営を北岡神社におき、花岡山東側中腹に大砲を引き上げ熊本城を砲撃した。
3 熊本駅	明治24年、鉄道が熊本まで開通した。春日ステーションと呼ばれた。
4 北岡神社	承平4年(934)祇園宮と称し、国府鎮護のために二本木に勧請されたのに始まり、その後花岡山山上に移される。焼失破却の後、加藤清正により旧観に復され細川時代も代々崇敬された。明治になり北岡神社と改め、現在地に移る。
5 清水寺	古い寺で建立年代は不明であるが、平安初期に二本木国府がおかれた頃に京都の清水寺が勧請されたのであろう。
6 春日寺 (しゅううんいん (岫雲院))	忠利公生前の遺志により火葬が行われた寺である。
7 細川家霊廟	寛永19年(1642)忠利の菩提を弔うために建てた妙解寺の裏山は、忠利夫妻をはじめ歴代藩主子女の墓がある。
8 禅定寺	大門は宇土城の城門を移建したものといわれている。寺域には、加藤家の重臣たちの墓碑が多く、小笠原玄也(細川家の重臣加賀山隼人の娘婿)らが殉教したことでも知られる。また、大門の横にはかなり古い観音堂が現存している。
9 妙永寺	加藤清正が母聖林院の菩提を弔うために、聖林院の3回忌に当る慶長7年(1602)に建立した日蓮宗寺院で、はじめは常光院と称した。開基は本妙寺の日真である。本堂の右脇に聖林院の五輪塔、その前の廟所には、清正の一刀三礼の聖林院木像が祀られている。

名 称	概 要
10 安国禅寺	慶長年間に加藤清正が創建したと伝えられる古い寺である。その後、細川忠利が国家泰平の祈禱所として寺領50石を寄進し、山号寺名を改めて現在に至っている。寺域には天草・島原の乱の戦死者の供養碑や著名な藩士の墓碑などが多い。
11 北岡自然公園	妙解寺跡で、明治になって細川氏は寺を廃して北岡別邸とした。昭和20年空襲で焼失し、昭和30年市が寺域を買受け北岡自然公園として市民に開放している。
12 加賀山マリア殉教碑	細川家の重臣であり切支丹の柱石といわれた加賀山隼人の娘みや(洗礼名マリア)は、幕府の禁教令によるキリスト教弾圧の中で夫小笠原玄也とともに処刑された。

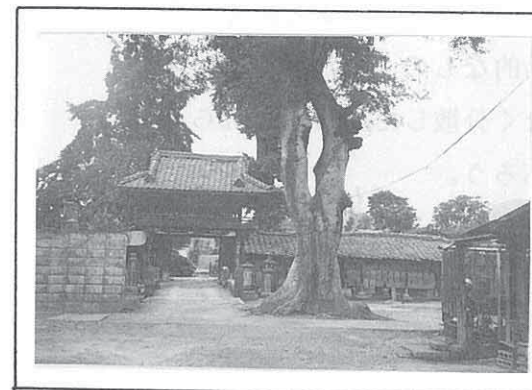
花岡山



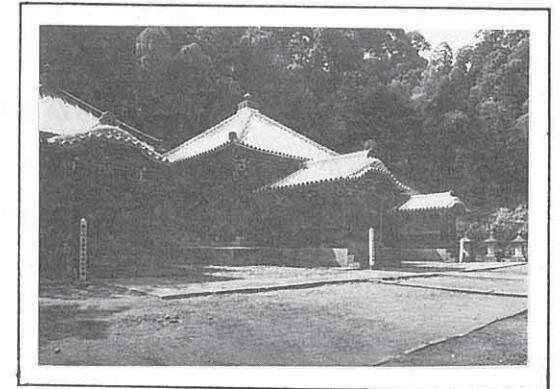
北岡神社



禅定寺



細川家霊廟



3-3 調査のまとめと整備の方向

本章で調査したように、熊本の城下町にはまだ多くのフィールドミュージアムの要素が残されているといえよう。

特に、城内については、花畑邸が殆ど失われてしまったのは残念であるが「城内域」が面的に保存されており、今後その境界となる堀や川、城内への導入口となる虎口が整備されればなお効果的であろう。

城内域については、別途具体的な整備計画が策定されるべきであろうが、その前提として数々の公共施設の移転が大きな課題となる。

そのためには、「熊本方式」とでも呼べる「移転による跡地利用の再開」により全市的な計画のうえで移転問題を考えるべきであろう。

城内にふさわしい施設を除いて移転を促進しつつ、熊本城本来の姿を整備することが、よりサイトミュージアム（遺跡博物館）としての価値を高めるであろう。

一方、城外（城下町）は城下町は現在でも依然として、旧街道及び脇街道を中心に発展してきている。これは、基本的な都市構造が変わっていないことのあらわれともいえる。しかし、旧藩時代の絵図に色分けされているような地区特性が明確ではなくなっている。古町や新町のように地区の特性がまだ少しでも残っている地区もあるが、最近マンション等画一的な建物が増え、昔の建物が姿を消してどこの地区も変わらなくなってきた。

またフィールドは現在、混沌としている。つまり、寺院や旧居等文化的なものやまんじゅう屋、そば屋等の生活的なもの、また花や茶の湯等の芸術的なもの等さまざまなものが脈絡なく分散している。これらのことが都市をわかりづらくしている原因であろう。

よって熊本城周辺に潜在するさまざまなフィールドミュージアムの要素は大きな軸に集約して、その軸をきわだたせるために整備を行うというフィールドバックが必要となる。

調査の結果、熊本城下町は大きく3本の軸に集約できる。

つまり、近世熊本城をつくり、都市を創始し、熊本における近世社会の骨格を形づくった加藤氏時代。京都文化をにじませながら熊本文化を醸成した細川氏時代。市制100年を迎える現熊本市の基礎となった明治・大正時代である。フィールドは、この3つの基軸に集約されよう。

こういったフィールドが各々その時代を反映するテーマをもって整備されれば視覚的に、また心理的にネットワークされ、城下町全体が歴史廻廊都市とよばれるにふさわしい効果が期待できよう。

熊本における都市整備の有効な手段として、フィールドミュージアムを提案するが、フィールドミュージアムは、城下町全体を人文総合博物館としてみたてたものであり、各々のフィールドが専門博物館や展示室ともいえる。各ミュージアムを回遊し体験することにより、自分達の文化を見直し、新たな文化創造の糧としたい。

第4章 フィールドミュージアム 熊本城下町整備計画

4-1 全体計画

(1) 整備の基軸とテーマ

前章のフィールドミュージアムの基礎調査では城下町に点在する特徴的な遺構、文化、生活等、熊本城下町の歴史を抽出した。

熊本城下町を表現する都市の脈絡は、「加藤氏時代」、「細川氏時代」「明治・大正時代」の3時代にその特性が最もよく表われている。

この特性をより明確にするために整備計画の軸となる整備テーマを設定する。

熊本城下町の持つ3本の基軸

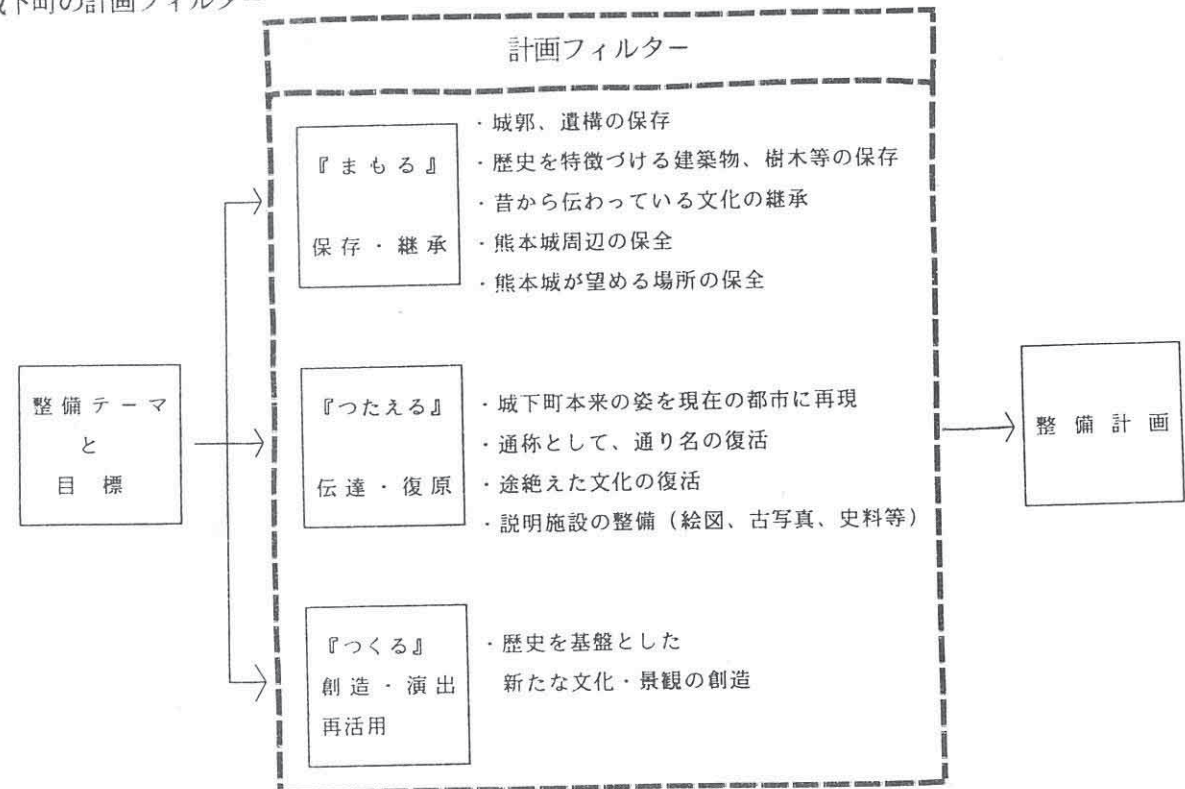
時代区分	年代	特性	時代特性を表わす整備テーマ	参考図
加藤氏時代	天正16年(1588) } 寛永9年(1632)	中世の「隈本」から近世の「熊本」への大きな変革期であり、現在の都市基盤の骨格を築いた『都市創造の時代』である。	築城 { 選地・縄張 普請・作事	寛永8、9年の絵図
細川氏時代	寛永9年(1632) } 明治4年(1871)	安定した時代において細川家に代表される武家文化を中心とした『文化醸成の時代』である。	伝統文化 { 工芸・園芸 芸能	幕末の絵図
明治・大正時代	明治4年(1871) } 大正14年(1925)	西南の役を機に「近世」から「近代」へ変革し現在の熊本市の基礎が形成された『近代化の時代』である。	近代都市 { 産業・経済 教育・文学	大正元年の地図

(2) 計画フィルター

熊本城下町における「まもる」、「つたえる」、「つくる」という計画フィルターは右図のように整理される。

計画フィルターは、整備テーマを定め計画を実施する際に潜在するさまざまな要素（保存、伝達、創造等）を調整し、脈絡づけることに有効である。つまりこのフィルターによって整備計画が物語性を持つといえよう。

熊本城下町の計画フィルター



(3) 整備計画

加藤氏時代 整備のテーマ：[築城] ～選地、縄張、普請、作事				
整備のテーマと目標	まもる (保存、継承)	つたえる (伝達)	つくる (創造、再活用、演出)	整備箇所
<p>選地 (城地の選定)</p> <p>加藤清正が築城のために選地した茶臼山一帯を保全するとともに中世の頃の宇宙観を現在に伝える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 茶臼山の外形と外観を形成する斜面の緑を保全する。 中世の頃の寺社跡を保存する。 藤崎宮の社叢林の大楠群を保存する。 	<ul style="list-style-type: none"> 斜面の緑の復元的植栽を行う。また、加藤清正入国以前の原地形復原模型をつくる。 社寺跡に説明施設を整備する。 森を再現する。 千葉城跡に説明施設を整備する。 遠方よりの眺望点を整備し、絵図、方位計を設置し熊本城の配置を示す。 豊国廟跡を調査し、説明施設を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> 緑を活かした憩いの場をつくる。 中世の頃の宇宙観 (地相、四神相応等) とでもいべき観念を視軸に置き替え現在に表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> 茶臼山一帯 野鳥の森 藤崎台 千葉城 茶臼山 (天守)、立田山 (豊国廟跡)、中尾山 (本妙寺)、花岡山、白川 豊国廟跡
<p>縄張 (築城の計画、設計)</p> <p>自然形態を巧みに利用した城の縄張と、武士と町人を効果的に配置した城下町の町割り、また城内への本来のアプローチも含め現在に表現する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 城内域外周を保存するバファゾーンを設置し、また望城路、望城地 (城を望む路地や地点) を確保する。 街道に特有の並木 (杉並木) を保存する。 	<ul style="list-style-type: none"> 町 (ブロック) ごとの町名を表示し、各町ごとに変化 (ゲートを設ける、路面舗装等) をもたせる。 城域、城下町を間近に展望できる高所に眺望所をつくり、絵図、模型等の説明施設を置く。 旧藩時代の古称を復活させ、通り名、坂名として由来とともに表示する。 街道名を復活させ、統一的な樹木の植栽、あるいは路面表示を行う。またポケットパークを設け、絵図、史料等説明施設を置く。 ★ 辻の札は榊形虎口、勢だまり、水堀を復元的に整備する。 失われた所は復原する。 特に重要な虎口は復元的整備を行い、絵図や模型を展示する。 	<ul style="list-style-type: none"> 散策路をつくる。 古称をバス停留所名、店名、建物名、商品名等に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 熊本城外周、城下町全域 城下町全域 市役所、ホテルキャッスル、ニュースカイホテルの最上階、藤崎台、監物台 等 城下町全域 豊前街道、豊後街道、日向街道、薩摩街道、札の辻 豊後街道・立田山、本妙寺への道 下馬橋、新堀内、新一丁目門、藪ノ内橋、薬師坂、古城 等

★^{こぐち}虎口——城の出入口をいう。

<p>普 請 (土木的構築)</p> <p>城郭本来の防御施設として現存する石垣、土塁、堀を保存し、後世に伝える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現存する石垣、土塁、堀を保存する。 ・熊本城石垣の石取場を展示し、石取場の様子や石積みの変遷、石の成分分析等、石垣に関する資料を展示する。 ・重要な堀は復原する。 ・線形が残っている旧坪井川のもとの姿を絵図等を展示し伝える。 ・坪井川に堰を設け水位を上げることにより堀としての姿を伝える。また水の手を復原する。 ・石垣博物館から熊本城までの遊歩道を整備する。 ・遊歩道化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・城下町全域(特に城内域) ・独鈷山 ・独鈷山～万日山～花岡山～熊本城 ・京町堀、古城堀 ・内坪井の堀 ・坪井川(石塘～坪井堰)
<p>作 事 (建築的構築)</p> <p>現存する城郭(櫓、御殿等)を保存し後世に伝える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・城郭建造物(櫓、御殿等)を保存する。 ・城郭建造物(櫓、御殿等)の内部を公開する。 ・御殿建造物(本丸、花畑、加藤清正古御殿等)の模型(一部復原を含む)を展示する。また花畑屋敷の規模を現在の町の中に表現する。(路面に輪郭を描く) ・現存しない城郭建造物を表示し説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・宇土櫓、数寄屋丸、二階御広間等 ・城内、花畑公園、花畑町 等 ・城内域
<p>その他</p> <p>加藤氏が残した政策、文化等を伝え古社寺を保存する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「市」が行われていた広場を復し、「市」を復活する。 ・古社寺へのアプローチ及び説明施設を整備する。 ・伝承館(新設及び店舗等のコーナーを利用)を設置する。 ・広場をコミュニティの場として活用し、前にJR駅(仮称:高麗門駅)を新設する。 ・伝承を絵本化(まんが化)する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高麗門前の勢だまり ・北岡神社、藤崎宮、禪定寺、妙永寺、安国禅寺、古町の寺 等

加藤氏時代

[選地]

- 中世要地の展示
- * 眺望所の整備
- 視軸の整備

[縄張]

- ▨ バファゾーン設定
- ➔ 望城路の整備
- 街道表示
- ★ 札の辻整備
- ▲▲ 杉並木の復原
- 桜並木の復原
- 🌲 一里木の復原
- 虎口の整備

[普請]

- ◆◆ 堀の整備
- 堀（坪井川）の整備（遊歩道）
- ▬▬ 堀（坪井川）の整備（舟路）
- ▼ 水の手復原
- ⊕ 石取場の展示
- 石取場へのルートの整備

[作事]

- ▨ 花畑邸の展示
- ⋯ 城内における建造物の展示、公開等
- 井手沿いの整備
- 「市」の復活
- ▨ 古社寺の整備



細川氏時代 整備のテーマ：伝統文化～工芸、園芸、芸能				
整備のテーマと目標	まもる（保存、継承）	つたえる（伝達）	つくる（創造、再活用、演出）	整備箇所
<p>文化 （工芸、園芸、芸能、 祭祀）</p> <p>江戸時代より伝わる 伝統文化を保存継承 する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統文化を掘り起こし保存継承する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市立博物館を伝統文化の拠点として位置づけ、内容をより充実させ、県立美術館、県伝統工芸館等相互にネットワークを整備する。 ・伝統工芸、技術、その他食文化まで含めた生産公開の場を整備し、マップ、カレンダーを作成する。 ・代表的な社寺の参道を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統文化の講座や講演会を開く。 ・細川家の代表的文化遺産を収蔵する永青文庫を公開するため展示館を設置する。 ・伝統技術の現代的活用を新しく開発する。 ・一般の人が使用できる茶室、能楽堂等の文化施設を増設する。 ・肥後六花を本来の姿で鑑賞（例えば座敷で鑑賞）できるような展示館（六花園）を建設する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県立美術館、県伝統工芸館、市立博物館、熊本大学付属図書館永青文庫、島田美術館 等 ・熊本大学付属図書館永青文庫 ・城下町全域 ・城下町全域 ・北岡自然公園 ・本妙寺、藤崎宮
<p>その他</p> <p>城下町の拡張整備と 政策の充実を現在の 都市に表現する。また 残存する遺構を保存 活用するとともに 町並みは復原的に修 景を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現存している建物及び庭園を保存する。 ・旧武家地や町家の特徴を保全し、周辺の修景を行い特徴のある町並みを守る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般に公開し絵図風の案内マップを作成する。 ・寛永と幕末の絵図を比較して展示する。 ★ ・広丁には火除地のイメージで路面やストリートファニチャーの整備を行う。 ・旧藩時代の形状を残す広木に番所跡・馬場跡等の歴史的意味を伝える。 ・蕃滋園を表現するため町特有の草花を植栽する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ広場とし活用する。 ・コミュニティ広場とし活用する。 ・特有の草花を町のシンボルとし、活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・薩摩屋敷、吉田松花堂、笠邸、刑部邸、釣耕園、採釣園、妙解寺 ・京町、黒髪、仁王さん通り 等 ・千反畑広丁、坪井広丁、草葉の広丁 ・小松原の広木 ・小沢町の広木 ・薬園町

ひろちょう ひろこうじ
★広丁（広小路）——道幅の広い街路

細川氏時代

[工芸、園芸、芸能等]

- * 文化のネットワークの情報拠点
- 文化スポット公開
(現在公開しているものも含む)
- ▲ 工芸スポット公開
- ★ 茶室、能舞台の新設
- ☆ 仮設の茶室、能舞台を仮設置し公開
- ★ 永青文庫展示館

[その他]

- 参道の整備
- ||||| 広丁、広木の整備
- 植栽



明治・大正時代 整備のテーマ：近代都市～産業、経済、教育、文学				
整備のテーマと目標	まもる (保存、継承)	つたえる (伝達)	つくる (創造、再活用、演出)	整備箇所
<p>経 済 産 業 等</p> <p>明治に近代化が発し、大正へ受け継がれ発展した都市の歴史ををまもり、100年を迎えた現在の熊本市と対比させ、現在に表現する。</p>	<p>・明治、大正時代の貴重な資料として、特徴的な建物、構築物を保存する。</p>	<p>・建物、構築物を公開する。</p> <p>・西南の役を現在に伝える歴史館をつくり、戦争の社会的背景を展示し、西南の役マップをつくる。</p> <p>・近代化を現在に表現する展示施設を設置する。 (古写真、企業、水道、鉄道、市電等)</p> <p>写真 —— : 富重写真館を公開し、古写真や当時の道具を展示する。</p> <p>企業 —— : 諸施設のホールやコーナーに当時の道具、機械、史料の展示を行う。</p> <p>水道 —— : 水道施設の歴史と当時の機械、水問題等を展示し、また水の科学的な遊び場も設置する。</p> <p>鉄道 —— : 熊本駅↔上熊本駅間を結び沿線の風景を含めた展示館とする。 上熊本駅 (池田ステーション) にはこの駅にゆかりの文学者の作品を展示し、熊本駅 (春日ステーション) には当時の列車、道具、機械を展示する。 また沿線の修景を行う。</p> <p>市電 —— : 大正時代の市電を復原して走らせ、水前寺公園前まで線路を引き込む。 沿線の修景を行う。 廃線跡は、路面表示等を行い、交通局に当時の道具、機械を展示する。</p>	<p>・建物、構築物を町の資料館やコミュニティセンターなどの公共施設、また喫茶店やブティックなどの商業施設として再活用していく。</p>	<p>・明治・大正の建物、構築物</p> <p>・花岡山</p> <p>・富重写真館</p> <p>・NTT、郵政局、銀行 等</p> <p>・八景水谷水源地、竜田山配水池</p> <p>・熊本駅～上熊本駅</p> <p>・交通局 市電沿線</p>
<p>教 育 文 学 等</p> <p>熊本を代表する人々 (文学者、教育者等) の偉業をまもり現在に表現する。</p>	<p>旧居を保存する。</p>	<p>・旧居やゆかりの地に作品等を展示、またオブジェ設置を行う。</p> <p>・文学の中に現われる風景描写、場面描写を現在地に表現する。</p>	<p>・散策路をつくる。</p> <p>・人物、教育を表わす展示施設を設置する。 (歴史、作品、人物像を表現する。)</p>	<p>・夏目漱石旧居、上熊本駅ラフカディオ・ハーン旧居 等</p> <p>・長崎書店、熊本大学</p> <p>・城下町一帯</p>

明治・大正時代

[産業、経済、教育、文学等]

- ★ 写真
- ☆ 教育
- ⊙ 鉄道
- ▬ 車窓
- 文学者・教育者
- * 企業
- 文学の広場
- ⋯⋯ 文学の道（漱石の道）
- 旧居・文学場面表示
- ▲ 古写真展示
- ◇ 史実表示
- ⋯⋯ 市電路線復原

展示施設
の整備



(4) フィールドミュージアムの構成要素

都市をフィールドミュージアム化する計画は多岐にわたるため、ともしれば全体を見失いがちである。そこでフィールドミュージアムの個々の計画を整備手法により整理すると、下記の6つに集約することが出来る。

これらのミュージアムは、フィールドミュージアムの構成要素であり来訪者は個々のフィールドを回遊することにより、都市全体が有機的に認識できるフィールドミュージアムを体験することができよう。

なお整備計画は、単独の整備手法（ミュージアム）を用いるのではなく、複数の手法を用いるほうがより一層効果的である。

- | | |
|----------------------|-----------------------------------|
| 歴史を
体験する
まちづくり | (A) サイトミュージアム <遺跡を訪ねる> |
| | (B) メリアルミュージアム <人物を偲ぶ> |
| | (C) シナリミュージアム <風景を感じとる> |
| | (D) ストラクチャーミュージアム <城下町の骨格をたどる> |
| | (E) マイクアップミュージアム <町並を漂う> |
| | (F) オールドタウンミュージアム <地区の生活、文化を体験する> |




(A) サイトミュージアム（遺跡博物館）

サイトミュージアムは、熊本城域に残存する遺構そのものを展示の対象とし、保存ということを大前提とした整備を行う。

残存する遺構とは主に城内域に残存する櫓門、石垣、堀、礎石等である。サイトミュージアムは熊本城を特徴づけている本来の空間を、現在の都市生活の中に再現するものであり、城郭を形成する主要な個所に説明板、絵図、史料や模型を展示する他、現在しない遺構で特に重要なものは、実体験できるように一部復原を行う。

A. サイトミュージアム



- | | |
|---|-------------|
|  | サイトミュージアム |
|  | サイトミュージアムの核 |
|  | 本来のアプローチ |

(B) メモリアルミュージアム (人物博物館)

熊本にゆかりの人物 (政治、経済、文学、教育等あらゆる分野の人物) を検証するミュージアムである。その中には、人物の偉業や作品を通して見た人物像、またひとりの人間としての人物像というものを表現してゆく。

さらに、ゆかりの地を結ぶルートを設定し散策することによって、人物が偲べるように整備を行う。

(例)

- ・生家や旧居等・・・保存し、博物館資料として公開する。
記念的なもの
- ・ゆかりの地を・・・ルートを設定し、散策することによって、人物を結ぶルート 物が偲べるように整備を行う。
- ・上熊本駅・・・文学広場として夏目漱石、ラフカディオ・ハーン等の文学を展示する。
- ・長崎書店・・・教育者とその教育精神を伝える展示を行う。
- ・熊本大学・・・作品と人物像を伝える展示を行う。

B. メモリアルミュージアム



- ◆ メモリアルの拠点
- * 旧居、記念館
- 漱石の道

(C) シーナリーミュージアム (風景博物館)

シーナリーミュージアムは、城下町のさまざまな地点で熊本城と城下町が感じ取れる場を整備するものである。

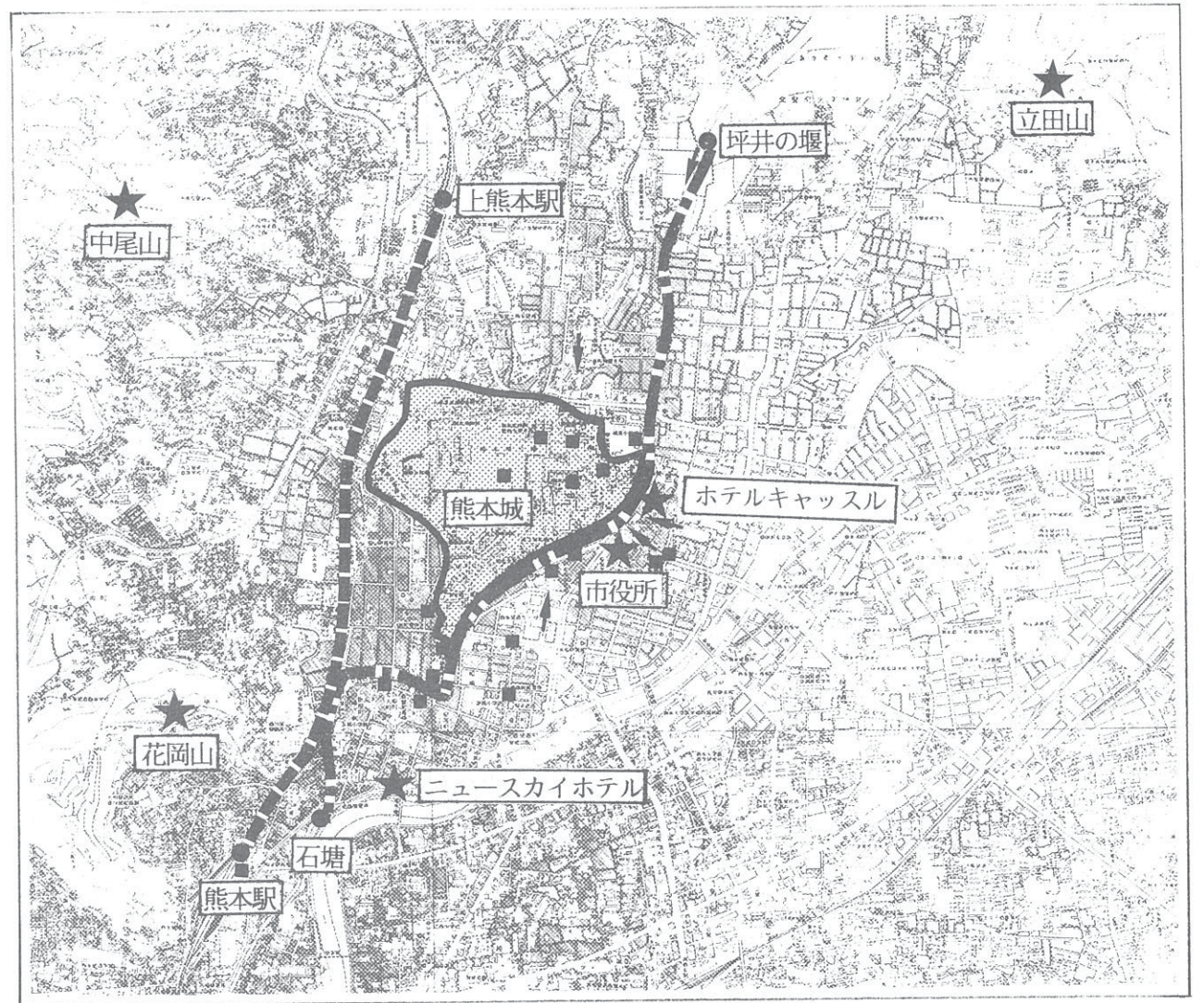
そのためには風景の阻害要素を修景する場合もあろうし、場合によっては風景を積極的に復原して来訪者の感性に訴えかける必要もあろう。

(例)

- ・ 城下町一帯の・・・古写真展示
撮影位置
- ・ ランドマーク・・・ランドマークの形状とランドマークへの眺望
〔熊本城、立田山〕を確保し、妨げるものについては修景を行う。
〔花岡山、金峰山等〕
- ・ 車窓の景色・・・市電・鉄道の手窓から眺められることを意識して、沿線の修景を行う。
- ・ 舟路の景色・・・坪井川に舟を浮かべ、城下町の情緒のある修景を行う。

なお、富重写真館をシーナリーミュージアムのキーステーションとし、明治、大正時代の貴重な古写真や当時の道具等を展示する。

①. シーナリーミュージアム



- 古写真位置
- ➔ 望城路
- ★ 眺望点・望城地
- 沿岸の風景
- 車窓の風景

(D) ストラクチャーミュージアム (城下町の骨格博物館)

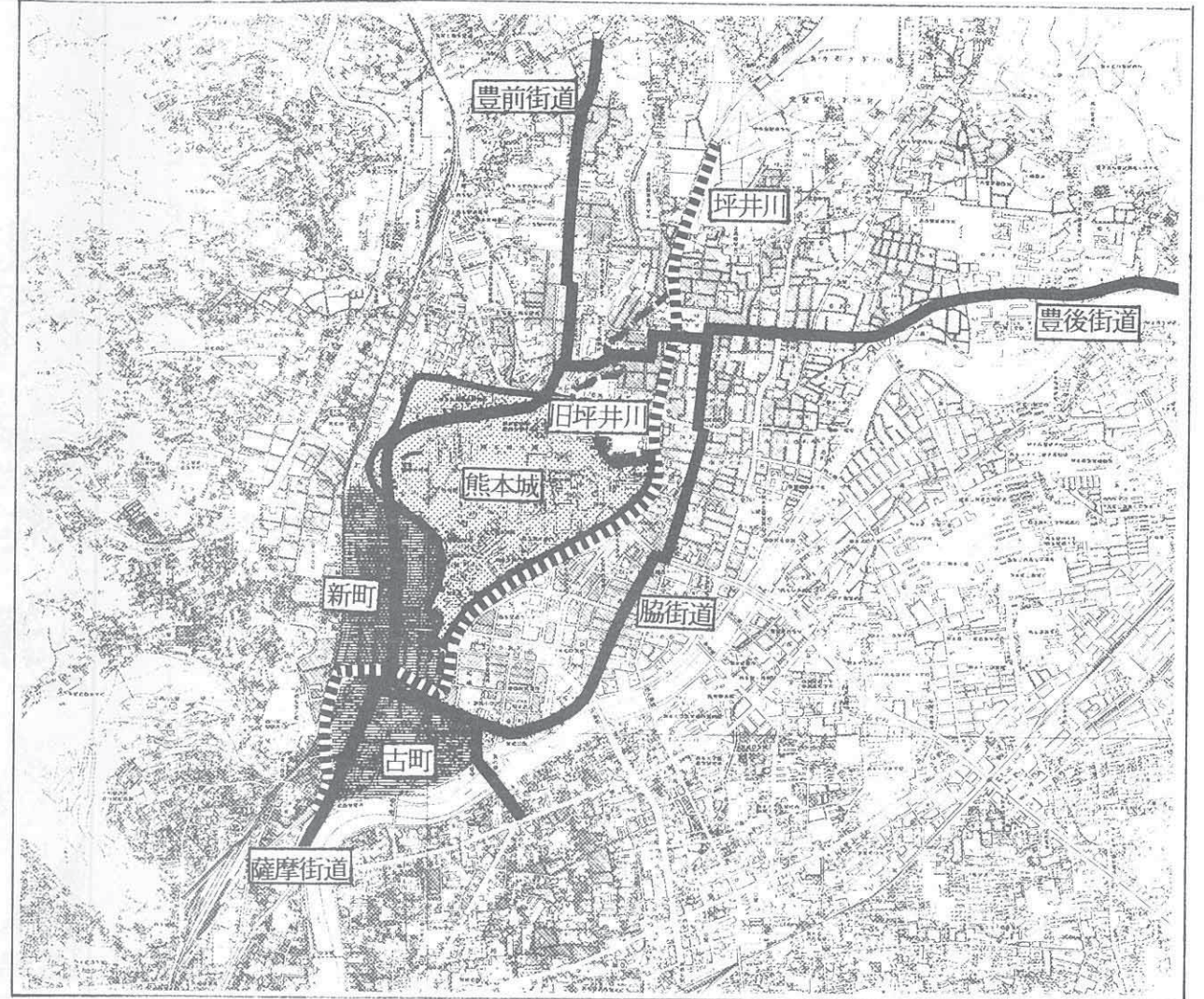
ストラクチャーミュージアムは、旧藩時代からの城下町の骨組みを構成している街道や町割り、堀といった線形のもの整備を行うミュージアムである。

これらは現在の都市の中ではもとの姿としてあまり認識されていない。そこで、その形状を保存し、本来の歴史的意義を広く伝え、現在に活用してゆく。

(例)

- ・ 4 街道 …… 連続性をもたせ街道としての整備を行う。
- ・ 町割り …… 古町の碁盤目割り、新町の短冊割り等の特徴的な町割りを強調する。
- ・ 坪井川 …… 堀としての整備 (堰を設け、水位をあげ、舟を浮かべる。また、右岸の一部に土手を復原する) を行う。
- ・ 内坪井の旧坪井川 …… 川の線形を活かした遊歩道とする。

4 図 D. ストラクチャーミュージアム



- 街道
- 坪井川
- - - 旧坪井川
- ▨▨▨▨ 特徴的な町割

(E) オールドタウンミュージアム (町並博物館)

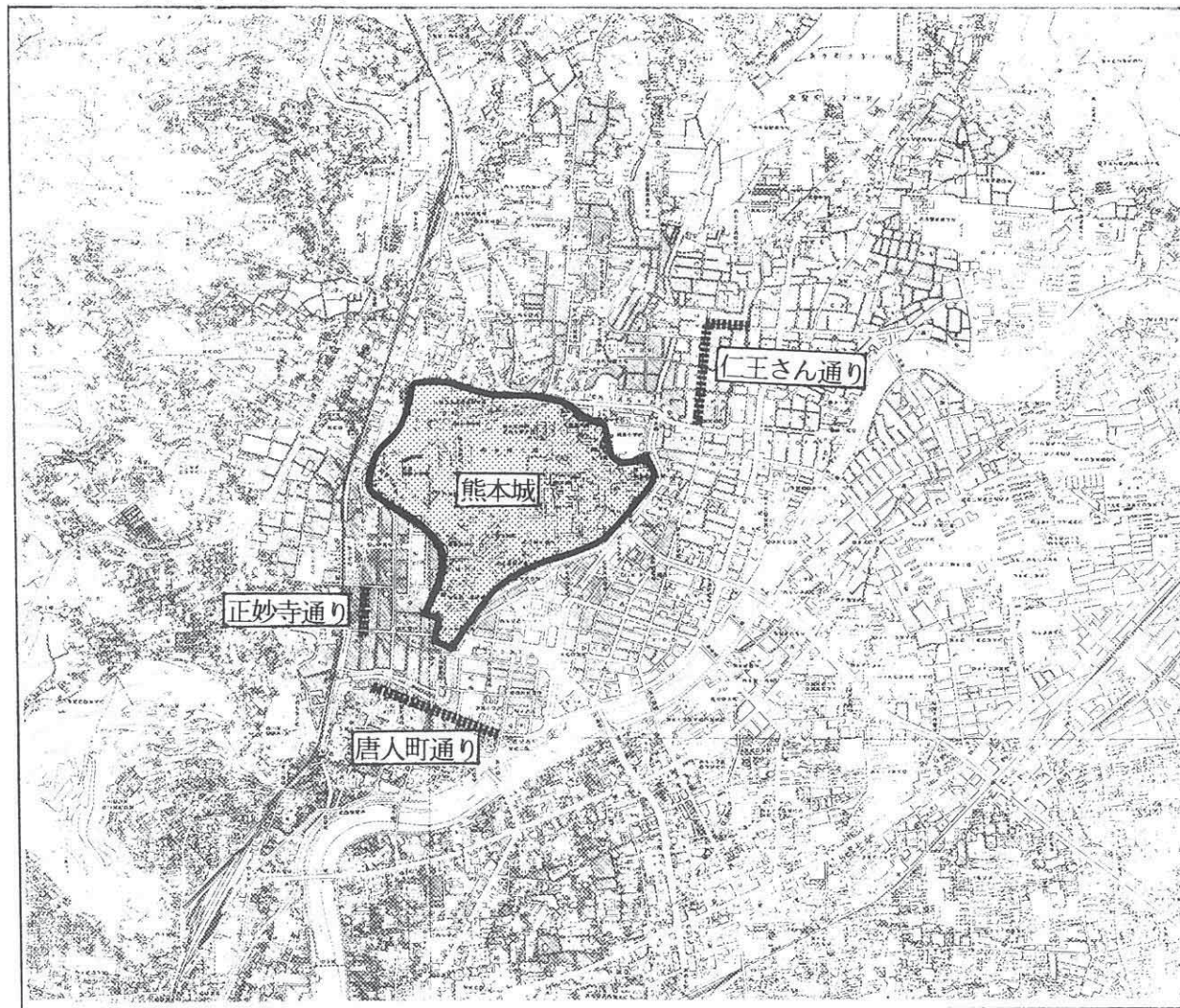
オールドタウンミュージアムとは、町並みそのまま展示対象となっているものである。

しかし、熊本市にはオールドタウンと呼ぶべき町並みは、現在線的にはほとんど残っていない。そこでこのミュージアムによって点的に残っている建物を核として、特徴のある町並みの整備を行う。

(例)

- ・唐人町通り・・・土蔵造りの町家を核として、明治・大正の雰囲気
の町並みに演出する。
- ・正妙寺通り・・・青桐並木があり、職人町の雰囲気をのこす町並
みをまもり、雰囲気にあった町並に整備する。
- ・仁王さん通り・・・正福寺に続く通りとして、庶民的な雰囲気を残
しているが、その雰囲気をまもり反映させた町並に整備する。

E. オールドタウンミュージアム



————— 特徴のある町並み

(F) マイタウンミュージアム（地区博物館）

マイタウンミュージアムは城下町そのものを展示の対象とし、来訪者が自由に見学、体験できる場の整備を行う。特に「人間の営み」を伝え「コミュニティーの場」として現在に活かすことを目指している。

城下町の特徴を伝えるものとして、伝統工芸や特産品等を製作販売している店舗、昔ながらの建物を改造して使用している店舗、歴史的町並みを形成する土蔵や、明治・大正建築等建物等（ハード）だけでなく、人々の営み（ソフト）を含めて考えられる。

これらはマイタウンミュージアムの構成要素として登録してもらい、内部を見学できたり、場合によっては体験学習できるようなシステムを整備し、常に人々の集まる場とする。

地区の生活を味わうネットワーク

城下町には「肥後六花」、「肥後象嵌」、「そば屋」、「和菓子屋」等その地区の伝統的な生活を表わす店舗等が点在しており、これらを登録しネットワークさせることにより、町の雰囲気味わうルートを整備する。

さらに草葉の広丁、高麗門前の勢だまり、小沢町の広木、小松原の広木等の広場は、歴史的意味は違っていても旧藩時代からの広場であり、コミュニティーの場であった。そこでこれらもマイタウンミュージアムとして整備を行う。

マイタウンミュージアムのキーステーションとして地区のあらゆる情報が得られるマイタウンキーステーションを各地区に設定する。

マイタウンキーステーションの形態は新築に限らず、公民館や集会所、場合によっては商業ビルや集合住宅の1階に組み込むことも考えられる。

マイタウンキーステーションには以下の機能を整備する。

情報機能

- ・地区の歴史———絵図、古写真等の文献史料を展示する。
- ・地区の生活———ミュージアムに登録されている家や店を写真やパンフレットで紹介する。

コミュニティー機能

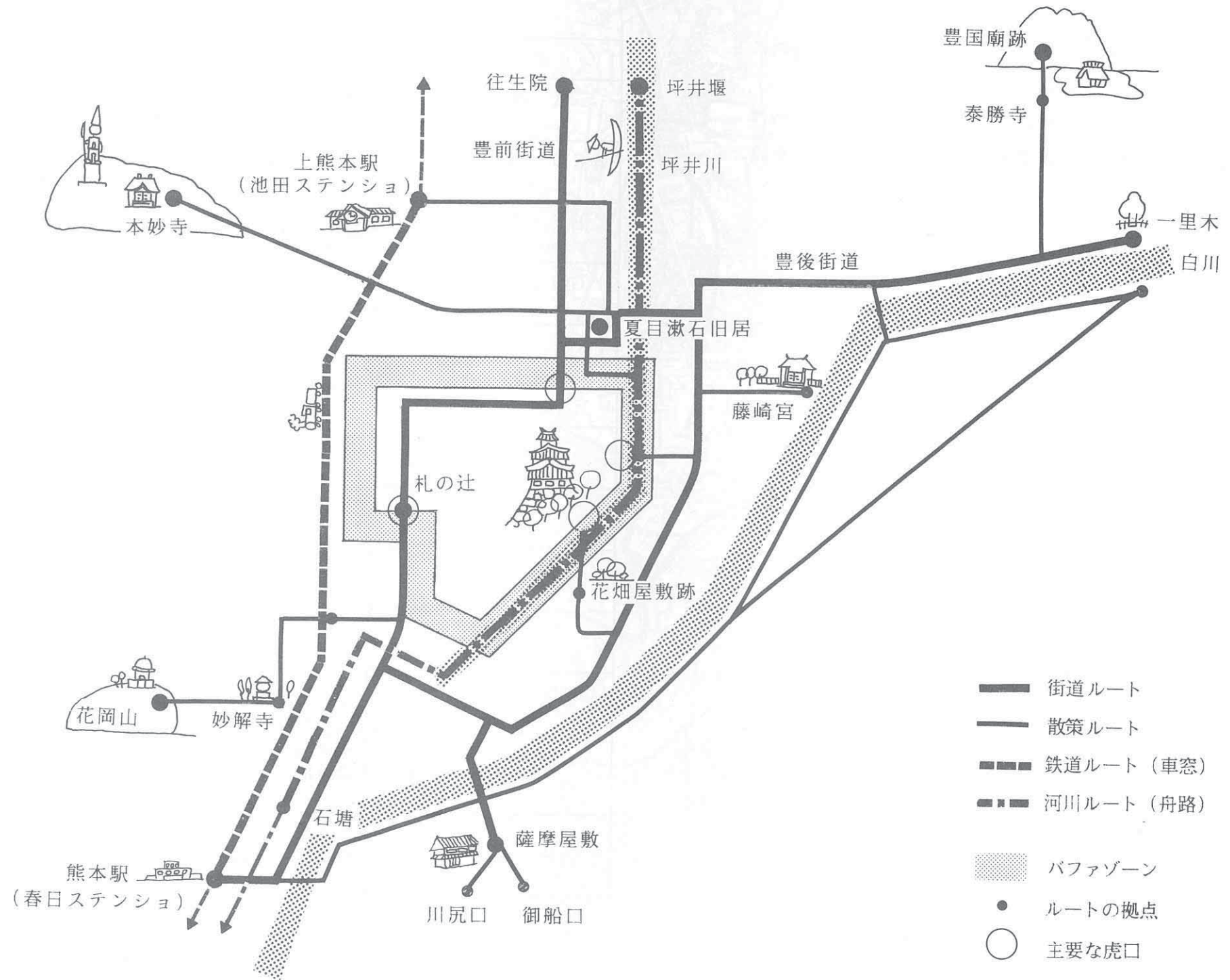
- ・イベントコーナー———伝統工芸の作製過程を展示する他、場合によっては試作する場を設ける。
- ・オリエンテーション———「城下町ウッチング」を開催する。
リングの基地

(5) ネットワーク整備計画

フィールドミュージアムの整備は「スポット」整備と「ネットワーク」整備により構成される。「スポット」は第3章の基礎調査で抽出された事項であり、「ネットワーク」はこれらのスポットを有機的に結ぶことによって都市内の物語性を生み出し、歴史的な意味をわかりやすく体験させることを目標としたものである。

ルート名	テーマ (歴史的意味)	場所	整備目標	整備計画	ルートの拠点の整備 (概要)
歴史を訪ねる ルート	石取場へ続く道	新町電停～禅定寺～北岡自然公園～花岡山～万日山(～独鈷山)	古寺をめぐる花岡山へ続く、歴史探訪の道	電停から花岡山までの遊歩道を整備する。北岡自然公園は、正門から入り花岡山へ抜けられるよう西に出口を設ける。	北岡自然公園 ----- 六花を鑑賞できる 花岡山 ----- 歴史公園化 展望所
	頓写会の道	本妙寺～雁木坂～中坂～坪井	京町の坂と本妙寺参道の風情ある道	特に雁木坂から本妙寺参道入口までの修景を行う。	本妙寺 ----- 展望所
	漱石の道	上熊本駅～新坂～漱石旧居～熊本大学	森の都熊本の演出と坂からの風景を印象づける文学の香りのする道	昔の活字や本の表紙・物語の絵等のオブジェを点在させる。新坂からの視界内の植栽や修景を行う。	上熊本駅 ----- 文学の広場 新坂 ----- 展望所
	城内へのアプローチ	新市街～辛島ロータリー～下馬橋とキャッスル横の通り	城内への導入を明確にする風格ある道	電柱の地下埋設・緑の整理等、城の見え方を意識した修景を行う。	下馬橋 ----- 復原 藪の内橋 ----- 復原
	熊本城周囲	札の辻～中央郵便局前～坪井川沿い～旧坪井川沿い～三の丸下～段山下	城への入り口と石垣・堀を見ながら城の大きさ・形を体験させる道	バファゾーンを設定して、城まわりを一周できる遊歩道を整備する。虎口・石垣・堀を明確に見せる。(バファゾーン後述)	各虎口 ----- 復原もしくは展示
	旧坪井川の堀	旧坪井川(六工橋～城東小脇～京町台下～壺川小脇)	堀の役割をしている坪井川を感じさせながら、水と親しめる道	水の流れに沿って遊歩道を整備する。途中伝統工芸館へのアプローチとしても整備し、親水場を設ける。	伝統工芸館へのアプローチ ----- 親水場
	広丁(火除け地)	広丁～藤崎宮参道	火除け地という本来の姿を表現した広場	歩行者優先の道路・広場として整備する。人々が足を止め、楽しめる空間としてポケットパークを確保する。	藤崎宮参道 ----- 随兵行列の展示広場
	杉並木と竜田山への道	豊国廟跡～泰勝寺～国道57号	泰勝寺への参道への並木道と緑豊かな散策路	歩行者優先の杉もしくは桜(千原桜)並木道と、竜田山への遊歩道を整備する。	豊国廟跡 ----- 展望所
白川大井手	白川沿い大井手沿い	水と緑の親しみやすい散策路	緑の風景・堰の風景を保全する。親水場をつくり、ほたるを放ち水に親しめる道を整備する。	分岐点 ----- ポケットパーク	
街道ルート	街道と札の辻	薩摩街道・脇街道・日向街道・豊前街道・豊後街道	城下町の骨格を形成する道、歴史を物語りながら歩ける道	カラー舗装・埋め込み・植栽等により街道を表現し、絵図で分けられる町の入口や、要所(虎口・構口)をゲートや標柱で示す分岐点・クラックには、修景を行うとともに道しるべを置く。	札の辻 ----- コミュニティ広場 薩摩屋敷 ----- 建物の保存修理と活用
堀ルート(舟路)	坪井川の堀	坪井川(石塘～坪井堰)	城の見え方の変化を楽しみながら歴史性(堀)を感じさせ、橋と家並みの風情ある舟路	水の手を復原する。堰を止めて、水かさを増して舟を浮かべる。川沿いの修景を行う。	石塘 ----- 舟着場 坪井堰 ----- 舟着場・望城地
鉄道ルート	鉄道	上熊本駅～熊本駅	文学・物語を考えさせ、汽車の中からの風景を楽しめる道	上熊本駅⇄熊本駅間を車窓を含めた風景の博物館とし、入場券で乗車できるシステムにする。	上熊本駅 ----- 文学の広場 熊本駅 ----- 鉄道博物館
市電ルート	市電	上熊本駅～熊本駅～水前寺公園駅	多面的な現在の町並の中にも秩序をもった活気ある道	沿線に大正時代の車両を復原し運行する。なお電車通りから水前寺公園の前へ引き込む。窓から風景を意識した植栽や、修景を行い電停周辺の整備をする。	交通局 ----- 市電資料館 水前寺公園駅 ----- 電停の新設

フィールドミュージアム熊本城下町
ネットワーク整備計画概要図



4-2 地区別整備計画

現況調査に現在の土地利用状況、地形・町丁界を加味すると、計画においては、16地区を右の12地区にまとめると合理的である。

地区別の整備計画は、この12地区で行い、それぞれの地区がもつ特性を生かすために整備テーマを設定し、各地区にはキーステーションを設置する。

地区名	特性	地区の整備テーマ	キーステーション
A：城内	熊本城	熊本城の保存と復元的整備	大天守
B C D：山崎・高田原・手取	オフィス街、繁華街	花畑屋敷の表現と企業博物館の設置	市役所最上階
E F：外坪井・千反畑・竹辺	街道に沿って栄えた町人町	町人町の町並と広丁の整備	藤崎八幡宮
G H：内坪井・寺原	京町台と坪井川にはさまれた住宅街	坪井川と旧坪井川の整備	夏目漱石記念館
I：京町・出京町	街道に沿った表通りの賑わいと、裏通りの静かな町並、坂	豊前街道と坂の整備	豊前街道と新坂の交差点の肥後銀行
J：新町	昔ながらの職人町	下町の風景と「市」の復活	高麗門の勢だまり
K：古町	一画一寺の町人町	町人町と寺の整備	五福小学校 (コミュニティーセンター)
L：迎町	街道の分岐点、職人町	薩摩屋敷と街道の分岐点の整備	薩摩屋敷
M：新屋敷	大井手沿いの静かな住宅街	大井手端の遊歩道と町並の整備	一の井手の分岐点
N：黒髪	大学を中心とした学園の町	眺望点（立田山）と並木道の整備	泰勝寺
O：本妙寺・島崎	清正公の本妙寺、景勝地の島崎	眺望点（本妙寺）とお茶屋・庭園のルートの整備	釣耕園
P：横手・春日	熊本駅、花岡山を背景にした古い寺の町	自然と歴史にふれあうルートの整備	熊本駅

- (A) 城内
- (B. C. D) 山崎・高田原・手取
- (E. F) 外坪井・千反畑・竹辺
- (G. H) 内坪井・寺原
- (I) 京町・出京町
- (J) 新町
- (K) 古町
- (L) 迎町
- (M) 新屋敷
- (N) 黒髪
- (O) 本妙寺・島崎
- (P) 横手・春日

★ キーステーション



(A) 城内

地区の特性	熊本城
地区の整備テーマ	熊本城の保存と復元的整備
キーステーション	大天守

この地区は、城郭の遺構がよく残存しており、地区のかなりの部分が特別史跡として指定されている。よって、各種の調査に基づき遺構の保存と復元的整備を行う。また、一つの歴史公園として整備していくために本来の構造をもとに現況を加え、4ゾーンに区分した整備計画を立案する。

aゾーン サイトミュージアム（遺跡博物館）の核

〔遺構を保存し、失われた遺構は積極的に復原し、学習の場として位置づける。〕

- 天守 : 各地区のキーステーションの核として統合的な役割をもたせる。
- 下馬橋 : 復原を目指す。

bゾーン オープンスペース

- 〔建物、駐車場等の移転を促進し、公園、広場を拡大する。〕
- 県立美術館、県立伝 : 文化の拠点であるので、全ての文化の情報を収集し広報する。
 - 統工芸館
 - 稲荷神社周辺 : 藪の内橋を復原し、公園整備を行う。
 - 千葉城 : 中世の要地、宮本武蔵ゆかりの地として整備する。
 - 古城 : 医学校、洋学校を表示する。
 - 古城堀 : 復原を目指す。

cゾーン 巨大展示場

〔熊本城に関する巨大展示場（武家屋敷群の集積保存）として位置づける。〕

- 藤崎台 : 古道、土塁、社叢林の復原とともに藤崎宮の表示を行う。
- 市立博物館 : 歴史博物館の役割をもたせる。

dゾーン サービスゾーン

〔駐車場、休憩所等のサービス施設を整備する。〕



- 街道の整備
- 散策ルート（車窓）の整備
- 鉄道ルート（車窓）の整備
- 河川ルート（舟路）の整備
- 遊歩道の整備
- 虎口、構口の整備
- 眺望点設置
- 望城地、望城路の整備
- 古写真展示
- キーステーション
- 展示施設の整備
- 基礎調査スポット

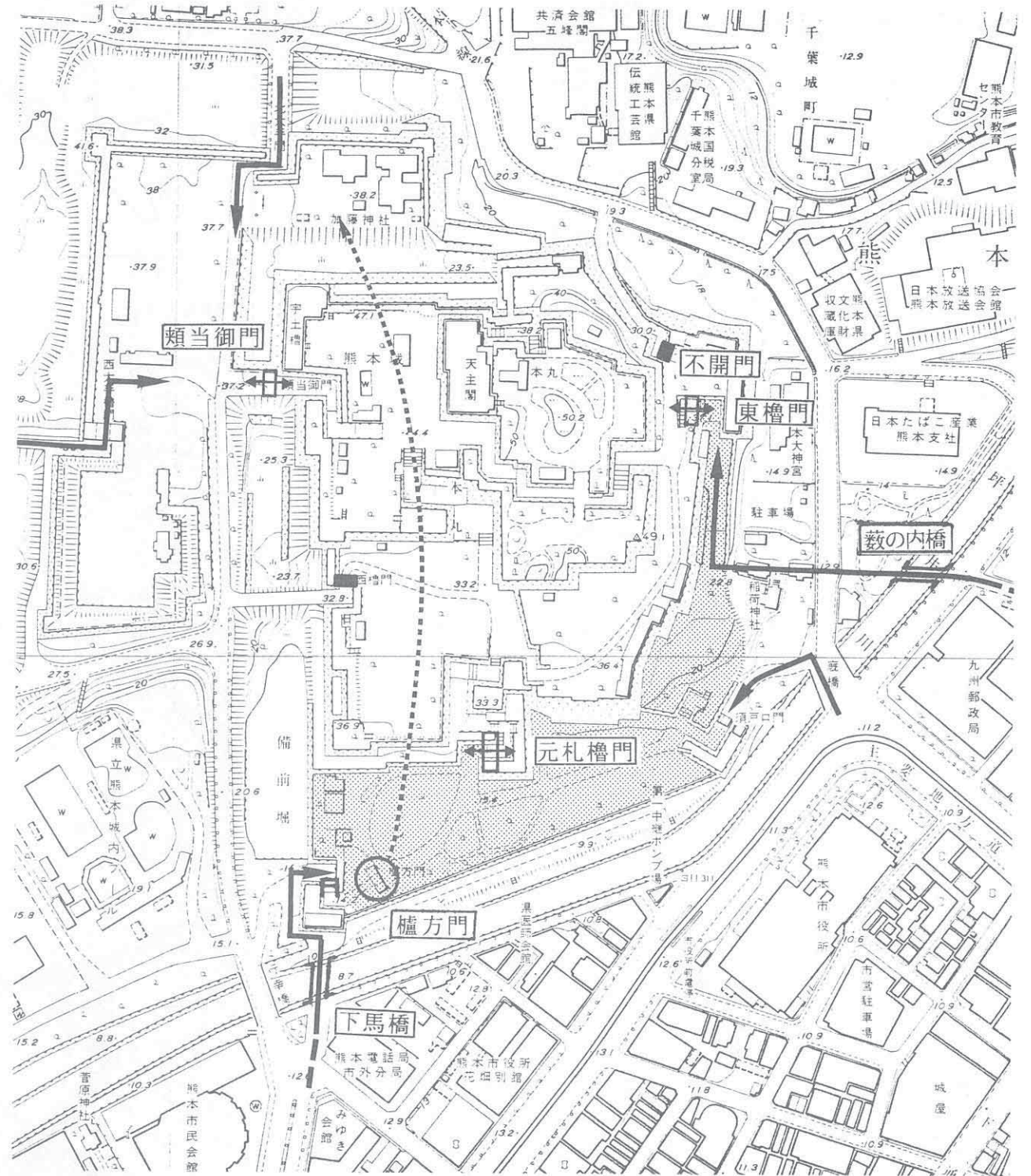


<竹の丸の無料開放への検討>

現在熊本城には頬当御門・櫓方門・須戸口門の3ヶ所に料金所が置かれている。竹の丸には肥後六花園があり草花を鑑賞しながら散策ができ、また須戸口を出ると坪井川があり水とも親しめる。そこで市民にとって、熊本城がより身近に親しめるように竹の丸までを開放し（夜間は除く）、下馬橋～竹の丸と高石垣～須戸口門～麩橋～長堀通りを回遊できるようにする。

この際、料金所は元札櫓門・東櫓門の位置に設け（将来的には櫓門の復原）櫓方門は本来の位置である現加藤神社の地（櫓方会所の中門）に移築復原する。

- 閉ざされた門
- ⬆️⬆️⬆️ 出入可能な門（料金所をもつ）
- ▨ 無料化する区域
- ➡️ 主なアプローチ
- 〰️ 橋の復原
- ⌌ 冠木門の復原
- ➡️ 門の移築復原



(B, C, D) 山崎・高田原・手取

地区の特性	オフィス街、繁華街
地区の整備テーマ	花畑屋敷の表現と企業の歴史の展示
キーステーション	市役所最上階

<加藤氏時代>

市役所最上階、ホテ：城が真際に見える眺望所として、一般に開放し、ルキャッスル 絵図、史料、方位を示す説明板を設置する。

ホテルキャッスル脇：望城路として修景を行う。

通り

上通り、下通り：ボシタ祭りのルートである上通り、下通りのシャッターに随兵行列の絵巻物を描く。

下馬橋への通り：望城路として修景し、古写真を展示する。

菟の内橋：橋を復原し上通りから菟の内橋への道を望城地も含め整備する。

花畑屋敷跡：庭園と屋敷を復原模型などで展示する。屋敷跡に沿って金属板等を埋め込み広さを示す。

<細川氏時代>

草葉丁広小路：大火災後、都市計画された火除地帯であることを表現し、コミュニティの場として活用する。

県特産品コーナー：特産品、工芸品を伝承を交えて展示する。

(サンブン会館三階)

新市街の角：仮設の能舞台で能を行う。

<明治・大正時代>

辛島公園・ロータリ：明治の辛島町付近の様子を古写真、外観模型で展示する。

(かつての肥後相撲館、大和座、電気館、時計台のあった九州新聞社、専売局たばこ工場等。)

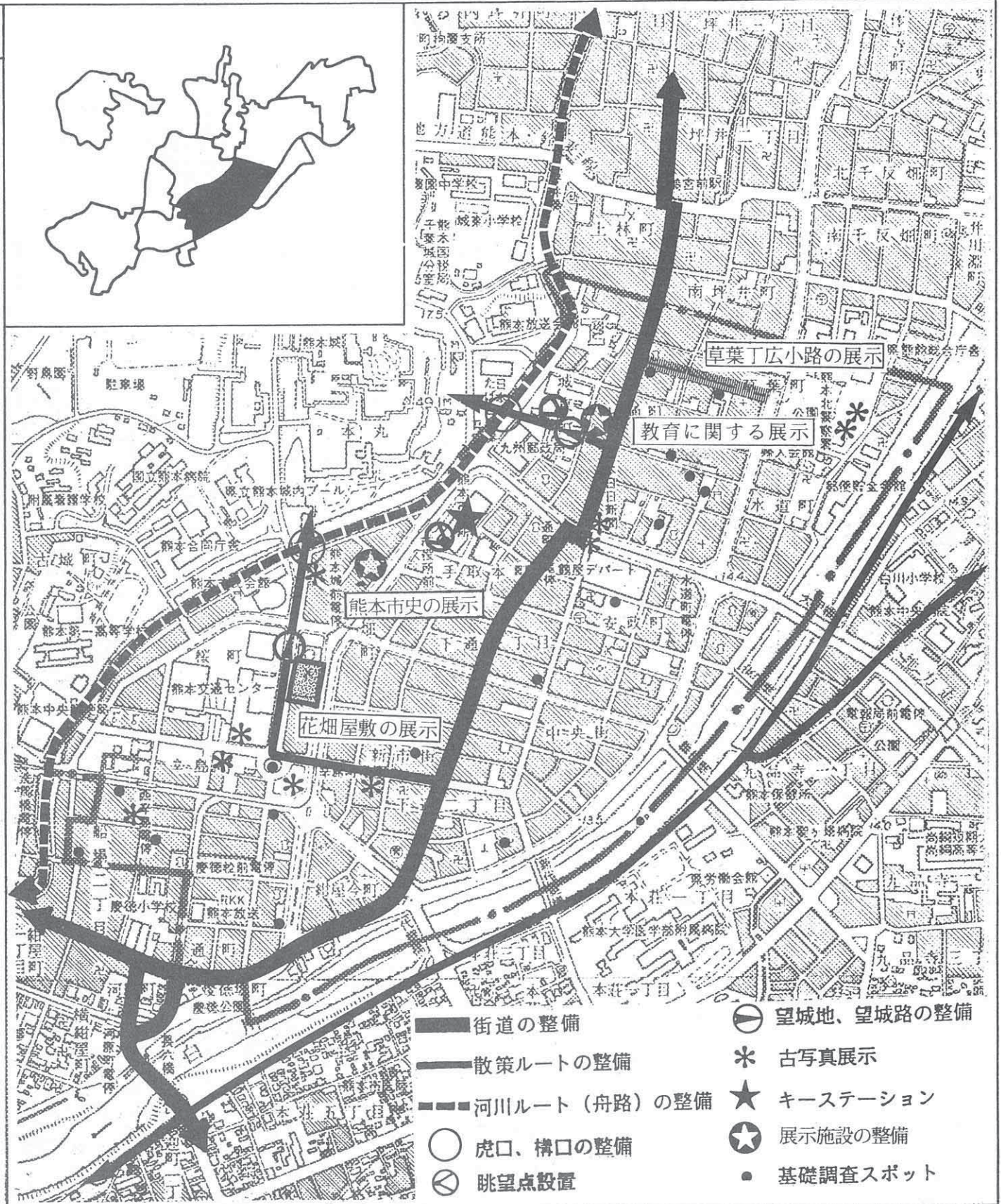
白川公園：明治・大正のころの公共建築の古写真、外観模型を展示する。

九州電気・NTT：企業の近代化の歴史を展示する。

郵政局等

市役所花畑別館：シティホールの建設の計画もあるが、その中に熊本市史の展示を組込む。

長崎書店：教育と教育者の歴史を古教科書、古本をともに展示する。また菟の内が文教の地であったことを説明する。



(E, F) 外坪井、千反畑・竹辺

地区の特性	街道に沿って栄えた町人町
地区の整備テーマ	町人町の町並と広丁の整備
キーステーション	藤崎八幡宮

<加藤氏時代>

- 立田の構口跡 : 府内、府外の境である構口を表示する。
- 六道辻 : 古くからの交通の要衝であったことを表示する。
- 千反畑、浄行寺の広 : ポケットパークを設け大火後計画された火除地帯として火災の記録等を展示し説明する。

<細川氏時代>

- 薬園町周辺 : 再春館の薬草園である蕃滋園跡を示し、薬草類の植栽を奨励する。
- 通称建町、横町、仁 : 地区の特徴的な町並として整備する。町家の通りとして活性化させるために、商店を誘致し、コミュニティの場としてのギャラリー等を設ける。旧町名を通称名として復活させる。また、上通りとの連続性を演出するために広丁との交差部にゲートを設置する。
- 点在する町の守り神 : 守り神をとりいれた町角整備をする。
- 藤崎八幡宮 : 広丁の延長の火除地帯として示す。また、随兵行列の絵巻物を展示する。

<明治・大正時代>

- 坪井川沿い : 上林暁の小説「梧桐の家」の坪井川端の場面描写を展示する。

